

令和6年度
(第20回)

運営諮問会議報告書

令和7年3月

新居浜工業高等専門学校

は じ め に

新居浜工業高等専門学校では、学校の管理運営に関して外部の有識者の皆様からご意見を伺う運営諮問会議を平成16年度から毎年度一回開催しています*。今回は令和7年2月17日に第20回目会議を新居浜高専内の階段教室にて開催致しました。

国立高専機構は、平成16年の独立行政法人化以降5年ごとに中期目標を立てて事業を実施しており、今年度は第5期中期目標期間の初年度となります。高専機構全体の評価となりますが、令和6年3月までの第4期事業における成果について高専機構本部を通して文部科学省に報告致しました。その結果第4期の評価は高専機構初の総合A評価を頂くことができました。令和6年4月からは第5期の中期目標が新たに定められ、本校もこの方針に基づいてその実施に取り組んでおります。今期も高評価を認めて頂けるよう、本校も努力を続けて行く所存です。

この運営諮問会議におきましては、新型コロナウイルスに対応できる感染防止体制を整えた上での開催も行っており参りました。近年新型コロナ5類移行後でも万全の体制を整えた上で、過去の通常時開催と同様に戻せるようにさせて頂いております。本年度は学校生活、行事等も同様にほぼ通常時の状況で進めて参りました。そしてより一層のグローバル化や、更に各高専がこれまでに培ってきた強みを活かすような特色ある学校づくりが求められていました。本校における海外大学等学術協定では、それまでの協定校4大学に加え、この3年間で新たに4大学と協定を締結し、双方の学生交流体制を拡大させております。

地域に貢献できる次世代型技術者の育成として、高専機構が行っている「COMPASS 5.0 事業」蓄電池分野PJの拠点校として、令和5年8月に本校と石川高専が高専機構から指名をされました。令和6年度では蓄電池テーマにおける教育パッケージ等を作り、人材育成を進めることを具体化させて実施をしています。令和8年度まで続く予算措置期間までに全国高専へ展開をしていく計画です。

このような取組には、自己点検と外部からの視点に基づく評価が重要であります。この運営諮問会議では、地域のステークスホルダーの有識者の皆様から様々なご意見を伺い、頂きましたご指摘等は今後の新居浜高専の管理運営の参考にさせて頂き改善・改革に役立てていきたいと考えています。

今後とも、本校に対してご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

新居浜工業高等専門学校
校長 鈴木 康司

*平成19年度は不開催。

目 次

はじめに

1. 運営諮問会議次第	-----	1
2. 運営諮問会議委員名簿	-----	2
3. 学校側出席者名簿	-----	3
4. 議事録	-----	5
5. 説明資料	-----	1 7
6. 令和 6 年度 年度計画及び進捗状況	-----	3 9
7. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	-----	5 0

第 2 0 回新居浜工業高等専門学校運営諮問会議 次 第

1 日 時 令和 7 年 2 月 1 7 日（月） 1 4 : 0 0 ～ 1 6 : 3 0

2 場 所 新居浜工業高等専門学校 階段教室

3 日 程

時 刻	事 項
1 4 : 0 0	開会 校長挨拶、委員紹介、学校側出席者紹介、議長選出
	議題
1 4 : 1 0	1. 学校概要について-----校長
1 4 : 2 5	2. 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について -----副校長（総務企画担当）
1 4 : 3 0	3. 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和 6 年度の新たな取組について （1）教育に関する事項 -----教務主事 専攻科長 情報教育センター長 （質疑応答）
1 4 : 5 5	
1 5 : 1 5	（休憩）
1 5 : 2 5	（2）学生支援に関する事項 -----学生主事 寮務主事
1 5 : 4 0	（3）研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 -----高度技術教育研究センター長 エンジニアリングデザイン教育センター長 副校長（改革担当）
1 5 : 5 5	（4）国際交流に関する事項----- グローバル教育センター長
1 6 : 0 5	（5）男女共同参画に関する事項----- 男女共同参画推進室長
1 6 : 1 0	（6）点検・評価に関する事項-----副校長（評価担当）
1 6 : 1 5	（質疑応答）
1 6 : 2 5	4. 総評
1 6 : 3 0	閉会

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：～令和8年3月31日
(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職
客 本 宗 嗣	愛媛県東予地方局長
秦 竜 吾	愛媛県小中学校長会 理事 新居浜市立川東中学校 校長
平 田 利 實	ユースエンジニアリング(株) 元代表取締役社長 (本校電気工学科 昭和44年卒業)
古 川 拓 哉	新居浜市長
松 下 博 彦	住友金属鉱山(株) 執行役員 別子事業所長
森 脇 亮	国立大学法人愛媛大学大学院理工学研究科工学系長 国立大学法人愛媛大学工学部長
横 川 明 英	新居浜商工会議所 会頭

学校側出席者名簿

職 名	氏 名
校 長	鈴 木 康 司
副校長（総務企画担当）	福 田 京 也
副校長（評価担当）	日 野 孝 紀
副校長（改革担当）	早 瀬 伸 樹
教 務 主 事	衣 笠 巧
学 生 主 事 (兼)保健管理センター長	志 賀 信 哉
寮 務 主 事 (兼)グローバル教育センター長	野 田 善 弘
専 攻 科 長	加 藤 克 巳
高度技術教育研究センター長	高 見 静 香
高度技術教育研究センター 研究推進部門長	松 友 真 哉
高度技術教育研究センター 地域連携部門長	喜 多 晃 久
高度技術教育研究センター 高度教育部門長	三 井 正
エンジニアリングデザイン 教育センター長	吉 川 貴 士
情報教育センター長	占 部 弘 治
男女共同参画推進室長	白 井 みゆき
機械工学科 主任	松 田 雄 二
電気情報工学科 主任	袖 美樹子
電子制御工学科 主任	栗 原 義 武
生物応用化学科 主任	堤 主 計
環境材料工学科 主任	松 英 達 也
数理科 主任	大 村 泰
一般教養科 主任	佐 伯 徳 哉
事 務 部 長	下 元 利 之
総 務 課 長	藏 田 修 一
学 生 課 長	徳 増 耕 平

議 事 録

議事及び質疑応答の概要

議事

- 1 学校概要について…………… 校 長
- 2 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について…………… 副 校 長
(総務企画担当)
- 3 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和6年度の新たな取組について
(1) 教育に関する事項…………… 教務主事
専攻科長
情報教育センター長

【担当者から配付資料に基づき説明】



【森協議長】

ご説明いただきありがとうございました。それではここまでの説明について、委員のみなさんから意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。挙手をいただければマイクをお持ちします。

まず、私の方から1点質問がございます。

スライド番号10ページの、本科入学者選抜状況について、赤字で女子入学者数が増えてきているのご説明がありましたが、これについて、自然に増えたのか、それとも何か工夫をされて増やしたのか、その辺りを教えていただきたいと思います。

【衣笠教務主事】

確かに何年か前に女子学生を増やすための取組として、女性の研究者に講演をしてもらうこともありましたが、そういうことが直接効果があったという感触はあまりありません。

地元の方々の間で女子学生も新居浜高専は受け入れる学校であると広まってきたという感触はございますが、何かこれが強く効果があったということではありません。

ただ確かに本校のPRに女子学生や女性教員を使うことや、色々なイベントごとに女子学生が直接中学生とふれあい話をする機会は多かったと思います。

そういった機会を通じて女子学生が過ごしやすい環境であると伝えられていると思いますが、それが増えた理由になるのか、効果があったのかはわからないところです。

【森協議長】

ありがとうございました。

愛媛大学の工学部でも女子の割合が非常に少ないので、増やしていく工夫を考えているところですよ。

高専は自然に増えたということかもしれませんが、大学としても高専と協力をして理系に進む若い生徒さんたちの気持ちを盛り立てるような協力を一緒にしていければと考えているところですので、今後とも教えていただけたらと思います。

【横川委員】

私は、17歳、18歳の年齢だと、高専の学生の中には、自分の進む道は工学系ではなく人文や経済でしたという人も実際に出てくると思います。

我々の金融業界でも、例えば高専から、銀行に入行する職員もいますが、営業で随分活躍しています。多分高専では工学系のことを勉強されたと思います。その専門の分野が自分と違った場合に落ちこぼれることや退学することがあると思います。



もう一つは、我々の金融業界へ入ったときに対面の経験が非常に少ない、Face to Faceが少ない職員がいます。力のある人であっても対面が苦手だったりすることがあります。高専では、そういった学生をサポートすることがあると思いますが、どういったお考えかお聞かせください。

【衣笠教務主事】

ミスマッチの話がございますが、高専に入ってから実はちょっと自分のやりたかったことと違う部分がわかり退学して自分がやりたい道へ進路変更する学生は確かにおります。中学校を卒業してすぐの年齢ですので、全くないわけではございません。

学生の中には中学校の時は数学や理科が好きだったけれども、高専に入学してから中学校の数学や理科のイメージと違う場合がでてきます。そうして、授業についていけない場合は、押し付けた形ではなく、学生と対話しながら、「あなたの進路はこちらの方が向いてるかもしれない、考え直しましょう。」といったサポートする対応をしております。学生それぞれに得意分野がありますから、学生にとって一番良い進路を対話しながら一緒に考える手助けをしております。

本校の中にも話すことが苦手な学生や、大勢の中で一緒に活動することが苦手という学生がいますし、増えてきていると感じます。その場合は無理に集団に入れるのではなく、そういっ

た場合でも、達成できるような方法を見つけるようなサポートの仕方と同時に、やはり対面のことも少し慣れていくことも大事だよという両建てでおこなっております。学生が無理をして体調を崩して、登校ができなくなるまでのことはしませんが、少しずつ慣れていく方向へという考え方を本校は持っていると思っております。
よろしくお願いします。



【平田委員】

19ページの自主性を尊重する校風の中にあります第3回高専防災減災コンテストが今朝のNHKのニュースで取り上げられていました。早朝だったので私は知らなかったのですが、高専同窓生の群馬県の友人から連絡があり、母校が頑張っていて嬉しいなと言う話で知りました。

こういった凄い事をおこなっていますが、案外、新居浜の地元の人は意外と知らないことが多いです。

私は、高専卒業生のSNSで繋がっていますが、一般の人は高専のことを知る機会がないので、新居浜市の市政だよりなどを活用させていただいて、高専の活躍をみんなで喜ぶような風土が欲しいと思います。感想になります。

【松田機械工学科主任】

機械工学科主任の松田です。この防災減災コンテストのチームは、機械工学科4年の創造性を育てる授業の中で希望を取って学生が取り組みました。全国で10チームが最終審査会に選ばれ、本校は国際科学振興財団賞をいただきました。

受賞した学生へNHKの新居浜支局から取材があり、ローカルニュースで取り上げられた内容が本日の全国放送になりました。実は3月にも全国放送で取り上げられることになっております。学生の活躍は色々なジャンルがありますので、そういったことを様々な場所で発信していければと思います。

【古川委員】

私もNHKの放送をみました。大変いいニュースだと思いました

去年は、あかがねミュージアムの「試行錯誤の青春展」のイベントで鳥人間コンテストの展示を見かけまして、色々な取組の広報をされていると感心しました。

地元の人が見ても大変興味深いことや、本当に関心の高まるようなことをされているので、なんとか新居浜市と連携していただければと思います。市政だよりよりは、市の公式SNS等の簡単で情報量が大きいものと連携をさせていただければと思います。ぜひよろしくお願いいたします。



【客本委員】

東予地方局長の客本です。

私も、今朝のNHKを拝見して、非常に楽しく、また素晴らしいと思っておりました。

私の方からは、みなさんに日頃の東予地方局の様々な特に人材確保関係の事業に協力をいただきまして、本当にありがとうございます。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

また、本会議では高専さんの事業の考え方がわかりましたので、改めていろんな形で連携させていただき、事業を進めたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。

我々地元の自治体側から見れば、特に新卒で県内へ就職するのが理想的ですが、現状では、県外の大手企業や学生さんが希望されるところに就職される場合の両方があります。新卒のみならず、1回は大きなところに就職して、それからまたUターンを検討する時期もあろうかと思いますので、そういった部分も含めて、継続的な情報提供や関係づくりにお力添えできないかなと思います。

私は東予地方局長という立場ですが、県の各部局、経済労働部、企画振興部など色々な部署がそれぞれ高専さんと連携して事業を進める部分もあろうかと思うので、そちらの方もよろしくお願いいたします。

質問ですが、資料の中で来年度の入学生からいわゆるパソコンの必携ということで、BYODの部分の考え方がありましたが、これは全国の高専一律での導入という形でしょうか。

それともう一つ、県内の高等学校は、入学時点でパソコンを自分で買って入ってくるのが、一般的になっているのでしょうか。その2点をお願いします。



【占部教員】

情報教育センター長の占部です。BYODは、全国の高専で一律の導入ではありませんが、私の印象では半数ぐらいの高専が実施しているように感じます。また、学科で購入させる場合は、もう少し多いと思います。ただ、長い高専ですと、10年前から実施しているところもあります。

県内の高等学校の事情は詳しくないのでわかりませんが、大学は工学系に限らずほとんど購入させる状況に向っております。

【横川委員】

東予地域は、四国の中でいうと元気がある地域だと思います。新居浜市は、住友グループの発祥の地と知られ、あかがねの町、地元の人は仕事を通じて住友の町と言います。私が小さい時は、銅板細工を小学校時代に作った記憶があります。マイントピア別子へ行くと銅の町ということで銅の製品がお土産として販売されていますが、製造元を見ると、新居浜と関係のない場所で製造されています。

都市間競争のなかでやがて新居浜市も限界集落に入ると考えますと、今治市のタオルや四国中央市の水引のように何か地元で根付かせたものがあればいいと思います。

私が学生の頃は上京する時のお土産と言えは別子飴でした。先ほどの報告の中にも素晴らしいカリキュラムやロボットコンテストなどがありました。そういった中で、新居浜に根付いた商品を作る学習やクラブ、または遊びの中で開発していただければと思います。ぜひ願います。

【森協議長】

大変貴重なご意見をありがとうございます。

高専さん、いかがでしょうか。

【鈴木校長】

そういう意味では先ほどの新しい起業家、企業を作るというところで我々が見ている感覚よりも広い目で見ている学生も多くおります。

また、私自身は他県から新居浜へ参りましたものですから、瀬戸内側は本当にいろんな企業があると感じます。今治のタオルもそうですが、今治造船株式会社、大王製紙株式会社、ユニ・チャーム株式会社など特徴のある企業が多くあります。そういった企業があれば、それがピラミッドの形になって中小企業もそのあとに続き育っていく感覚を非常に持っております。

特に本日は住友金属鉱山株式会社様がいらっしゃるのでこういった話になりますが、住友金属鉱山さんも新しい産業といいますか、リチウム電池など新しい物を作っていくことが非常に力強く感じておりますのでそういった分野で新しい新居浜の目玉がたくさん育っていくと高

専でもPRできる手助けができるのではと考えております。

【森協議長】

それでは、まだ議題が続いておりますので、一度休憩を取らせていただきます。

10分間休憩させていただき、15時30分に再開をさせていただきますので、それまでに席にお戻りください。

～ 休 憩 ～

【森協議長】

それでは少し早いですが皆様お戻りですので議事を再開させていただきます。

議事

- | | |
|----------------------------|------------------|
| (2) 学生支援に関する事項 | …… 学生主事 |
| (3) 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 | |
| | …… 高度技術教育研究センター長 |
| (4) 国際交流に関する事項 | …… グローバル教育センター長 |
| (5) 男女共同参画に関する事項 | …… 男女共同参画推進室長 |
| (6) 点検・評価に関する事項 | …… 副校長（評価担当） |

【担当者から配付資料に基づき説明】

【森協議長】

はい、ご説明ありがとうございました。それではこれまでの説明につきまして委員の皆様からご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

【松下委員】

住友金属鉱山の松下でございます。

人材確保をはじめ、日頃ご支援をいただき本当にありがとうございます。私どもはこの会議に出席するにあたって、見解を少しまとめてまいりましたので、ご披露申し上げます。

一つは、9ページの学科、カリキュラムについてですが、足元でエンジニアリング系の人材不足が深刻な状況になっております。特に土木・建築系の人材については、地元根付いた方の確保が難しい状況です。企業として人材確保に向けた努力はしておりますが、新居浜高専さまに土木・建築系学科があると非常にありがたいと思っております。



このような意見が先ほどご説明いただいた審議内容に添っているのかわからないところではございますが、これに関連して専門選択科目に土木建築科目を追加するとか、エンジニアリング総合科目のようなものを開設することはできないでしょうか。例えば、設備機械装置に関する概論とか、化学工学に関する概論、施工技術概論などの履修を念頭に置いた科目です。

もう一つは、先ほど16ページでご紹介いただきましたけれども、COMPASS 5.0の蓄電池人材育成を進められていると認識しております。電池は総合的な化学の知見を使って作られていますから、その実効性を高めるために、電気化学、反応工学、材料工学といった、電池と材料の理解を深められるようなカリキュラムの強化をお願いできればと思います。

26ページにおいてディプロマポリシーのご紹介をいただきました。従業員の育成は企業の基本的な責任であると認識しておりますが、企業に入社しますと答えのない問題に直面するものです。その際、どのように解決していくのか、物事の捉え方、構想力や課題解決へのアプローチを含めた教育が織り込めないかなと考えます。自らの構想を文章にまとめる力やその内容をプレゼンする力は入社してから必要になりますので、在学時から実践的な教育を実施していただければありがたいと思っております。

また、本会議に出席するにあたり新居浜高専出身の社員に聞いた話になりますが、在学中に材料工学などの専門科目の重要性について学生さんに周知する機会があった方がいいのではないかという意見もございました。

少し側面が違うものとして、これはあくまでも意見として捉えていただきたいのですが、インターンシップを現在は4年の休暇中の8月に実施していると伺っております。8月ですと10月からは就職セミナーが始まるため、学生さんにとって検討する時間がやや短いのではないかと私どもは認識しております。

したがって、学生さんが十分考える時間が取れるよう、少しインターンシップの時期を

早めることが可能かわかりませんが、私どもの社内でそういう意見がありましたので、ご検討をお願いしたいと思います。

【森協議長】

はい、どうもありがとうございました。

【鈴木校長】

はい、ありがとうございました。

まず、学科の話ですが、機械、電気はどの会社でも必要ですのでほぼ全国の高専にございます。その中で土木建築系の学校、生物化学系の学校は約2校に1校あります。土木建築系を持つか、生物化学系を持つかが一つの選択になります。もちろん両方を持っている高専もありますが、四国においては、本校が生物化学系を持ち、他の高専に土木建築系がある状況です。

当然ながらどれも大切な学科ですので、これを全国の高専で持てないかという考えもありますが、少子化の中でこれ以上定員を増やすことは財務的に考えても困難ではあります。しかしながら、手をこまねいているのではなく、やはり政治に働きかけをして、いずれ増やせることもあるかもしれません。

現状では、本校にも他県から生物応用化学系を学びたいから入学する学生もおりますし、また、逆に新居浜市内の中学生でも、どうしても土木建築系を学びたいからと、他県の高専を選ぶこともございます。

蓄電池分野に関しましては、漸く教育プログラムを作り始めた段階です。今、本校が中心になっておこなっているのは、地元企業の蓄電池に関わっている会社、それが大阪まで行けばサプライチェーンとしても成立しておりますので、そういったところから本校がモデルを作って、それを全国に発展させることをおこなっています。これは電池以外にもITもそうですし、自然エネルギー開発もやっております。今は始まりだしたところですが、産業を支えるのは次の世代になってきますので、こちらも全国的に強化を図る必要があります。

問題解決力についてですが、例えば課題に対して答えが見つかってない、もしくはいくつも答えがある中でそれをどう選ぶかという能力を養う学習をPBL教育と言います。こちらの方は本校でも数年かけて、各学科、各学年ですべてやっているとはいいませんが、いろいろなチャンスやそれぞれに応じたカリキュラムを作り上げております。

もちろん好評ですし、これからそういった力が必要になってきますので、これから益々強化していくことが必要だと考えております。

それからインターシップの時期についてですが、高専はどうしても中学年齢から入ってきますので、3年生が終わるところでは一般科目を終了し、ようやく専門科目を始めだしたというレベルになります。

インターンシップの時期を早めた場合も学年を下げたなりのことはできますが、5年間で卒業させるため4年生で実施するのが今のところ一番良いかと思います。さらに専攻科に進む学生につきましては、力が伸びていますので、専攻科では長期間の実施をしており、内容もより高度で研究的なインターンシップのできる環境を揃えております。

昨今は国の指導もありまして就職解禁日はもう少し遅かったのですが、こちらの方も時代の要請でしょうか、どんどん早くなっております。そういうことでは、確かに民間式に早期に経験させて、そういった経験を持った上で入社すればいいのかなという考えはございます。

貴重なご意見ですので、本校としてできるところを検討していきたいと思います。

ありがとうございました。

【森協議長】

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

【客本委員】

先生方のご発表は本当にためになりました。ありがとうございました。

地域連携につきましても、高見先生、いろいろありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。新居浜、そして愛媛の産業を支える、そしてけん引する人材育成が大いに期待されていると思います。

先生方は各方面からの色々なミッションを期待されて、ご苦労も多いかと思いますが、これからも新居浜高専で学んでみたいという学生さんが増えるように、輝き続けていただければと思います。よろしくお願いします。

全く別の切り口ですが、ダイバーシティの話をお伺いする中で、こちら運営諮問会議委員のメンバーが、今回は男性だけということになっております。その時の役職の関係で難しい部分もあるかと思いますが、女性の方も選出し、徐々に増やしていく取組も必要かなと感じました。これは意見でございます。

【森協議長】

ご意見ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょう。

それでは、皆様からいただきましたご意見をまとめまして、少しお時間をいただきまして、総評を行わせていただきます。

まず初めに、多様性が重要視される時代において、社会状況の急激な変化にも対応し、学生の学びを止めることなく支え続ける活動に対して、深い敬意を表します。

定員確保に関しては、さまざまな広報活動を実施された結果、女子学生の入学者数が令和4

年度29%から、令和6年度37%となったことは高く評価できます。

卒業・修了後の進路については、県内企業をはじめとする企業への就職や、大学・大学院への進学など、さまざまな進路が確保されていることが確認できます。特に、就職率100%は高く評価します。

管理運営においては、学位授与機構認定専攻科審査や国立高専教育国際標準の認定審査に向けた準備を組織的に行っていることは評価できます。

数理データサイエンスAI教育プログラムが定着していることを評価します。

教学マネジメントの観点から、組織的に質保証の取組を継続し、改訂版モデルコアカリキュラム(MCC)に対応した改善を実施されていること、MCCを包括したDP設定を求められていることに対して準備していることを高く評価します。

専攻科教育に関しては、入試方法も含めた学生の質保証の取組や起業教育の充実などによって新しい方向性が定着していることを評価します。

研究体制、外部資金獲得推進および新居浜高専基金の設置による外部資金の獲得が増えることを期待します。

情報教育センターを中心とした高専の情報環境整備・支援を高く評価します。

学生支援に関しては、イベントの開催など学生生活を充実させる取組に期待します。またクラブ活動の「技術指導コーチ」制度導入と教員の負担軽減にも積極的に取り組まれていることを評価します。

多様で複雑な学生のメンタルヘルスのケア、社会とのつながりが多様化する中での学生の安全な生活の確保など様々な課題に対して様々な資格をもつ学外カウンセラーの雇用、ピアサポート体制と積極的に対処されていることを評価します。

学寮に関しては、学生の生活および安全を継続させるために交流会、短期留学生の受入れ、改修工事と様々な取組をされていることを評価します。女子学生が増えることへの対応及び予算措置への対応など、今後の継続的な取組に期待します。

高度技術教育研究センターに関しては、研究推進、地域連携、および高度教育の3本柱を確立され、継続的に成果を上げていることを評価します。地域連携活動も松山リハビリテーション病院との連携と順調に市町への拡がりを見せており、その成果が期待されます。また、新たな取り組みとして、国領祭「企業紹介ブース」の試験的出展を行い約200名の来場があったことも評価できます。

エンジニアリングデザイン教育センターのものづくり課外活動の支援に期待します。

高専スタートアップ事業・アントレプレナーシップ教育環境、またCOMPASS5.0蓄電池分野の拠点校としての今後の成果に期待するとともに高く評価します。

グローバル化に関しては、単なる国際交流、語学研修ではなく、専門研究や将来の職業を意識した取組に期待します。

男女共同参画において、本科新入生の女子学生の割合が全国トップクラスに増加していることを受け、令和7年度から「ダイバーシティ推進室」と名称を変更され積極的な取組に期待します。また、令和7年度には女性教授の登用比率が14.8%と上位5高専に入り、工学系の教育機関として女性の参画を積極的に推進している点が高く評価されます。

点検評価に関して、令和5年度から教学IR室を設置され、点検・評価に関する将来方針が整っており、今後の取組に期待します。

以上をまとめますと、地域の要望に応えるための教育・研究体制が着実に構築され、新たな取組が積極的に行われており、その成果が地域からも高く評価されていると考えます。特に、女子学生の志願者数の増加や令和7年度からの女性教授の登用、ダイバーシティ推進室の設立など、男女共同参画に関する取組みが積極的に進められ、工学系教育機関としての先進的な姿勢が高く評価されます。

総じて、これらの取組みが定着しており、今後の更なる発展が十分に期待できると考えますので、よろしくお願いいたします。

【鈴木校長】

森脇先生、取りまとめをありがとうございました。本日紹介させて頂きましたグローバル化、ダイバーシティ事業の拡充、蓄電池分野などの次世代技術を担う学生の育成など、時代の推移と共に社会から求められる人材像も進化してまいります。本日の委員の方々は、本校のステークホルダーとして産官学各分野、更に時代のニーズ・シーズの最先端状況を把握されておられます。その中での本当に貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。学校運営において、重要なチェックの機会になったと受け取っておりますと共に、本御意見を活かして今後の改革推進に努めていきたいと思いをします。

委員の皆様、誠にありがとうございました。

説 明 資 料

- （独）国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要
- 第 19 回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について
- 教育に関する事項
- 学生支援に関する事項
- 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項
- 国際交流関係に関する事項
- 男女共同参画に関する事項
- 点検・評価に関する事項

技術で世界へ未来へ

(独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要



第20回運営諮問会議(令和7年2月17日)
校長 鈴木 康司

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

新居浜高専が受審している外部評価

- 1. 新居浜高専運営諮問会議**
(毎年受審 2月頃: 地域のステークホルダー)
東予地区の高等教育機関として新居浜高専の目指すべき姿の提示と意見聴取
- 2. 高等専門学校機関別認証評価**
(R4. 3受審 7年毎: (独) 大学改革支援・学位授与機構)
教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況の評価
- 3. 学位授与機構認定専攻科審査(特例適用専攻科レビュー)**
(R6審査 5年毎: (独) 大学改革支援・学位授与機構)
専攻科生の学位授与(学士)に係る修得単位及び学修成果審査の一部を、高専教員が担える資格認定を受けるための審査
- 4. 国立高専教育国際標準(KIS: KOSEN International Standard)認定**
(R6本校初受審 6年毎: (公財) 日本工学教育協会)
高専の本科教育の質の向上と、国際的な教育の質保証を国内外に対して認定する制度
- 5. 国立高専機構監事監査**
(R5受審、5年毎: (独) 国立高等専門学校機構)
機構監事による本校業務遂行状況の合法性、合理性等を客観的な立場で検討・評価、本校の運営の健全性を高め、社会的信頼を担保

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

沿革

昭和37年 高専制度第1期校として設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科)
昭和41年 金属工学科を増設
昭和53年 公害教育研究センターを設置
昭和62年 金属工学科を材料工学科に改組
昭和63年 電子制御工学科を増設
平成4年 全国に先駆け専攻科設置(生産工学専攻、電子工学専攻)
平成9年 工業化学科を生物応用化学科に改組
平成11年 公害教育研究センターを高度技術教育センターに改組
平成15年 電気工学科を電気情報工学科に改組、情報教育センターを設置
平成16年 独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校へ移行
平成17年 ものづくり教育支援センターを設置
平成19年 材料工学科から環境材料工学科に改組
平成29年 ものづくり教育支援センターをエンジニアリングデザイン教育センターに改名、保健管理センターを設置
令和2年 グローバル教育センターを設置
令和4年 創立60周年記念講演会(長岡技科大 鎌土学長: 本校OB)

12校でスタート、現在国立51高専
新居浜高専と奈良高専の2校

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

教育理念と基本方針

教育理念

知恵・行動力・信頼

教育の基本方針

学びと体験を通じて、
未来を切り開く知恵と行動力を持った
信頼される技術者を育てる



新居浜高専3つの方針(ポリシー)

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)

教室・会議室等、各所に掲示

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

教育目標

本科

- 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、**専攻科の教育目標**に次の事項を加える。

- リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



教室の掲示

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

本科および専攻科の構成

本科(準学士): 四国唯一の5学科で構成される高専 多岐にわたる製造業に対応可能な学科編成

- 機械工学科
- 電気情報工学科 (電気工学コース・情報工学コース)
- 電子制御工学科
- 生物応用化学科 (応用化学コース・生物工学コース)
- 環境材料工学科
(材料関係の学科を持つ高専は全国で4校(仙台、鈴鹿、新居浜、久留米))

専攻科(学士)

- 生産工学専攻
- 生物応用化学専攻
- 電子工学専攻

特例適用認定専攻

令和6年度(第20回)運営諮問会議

規 模			
令和6年10月現在			
学科名	学生定員	在籍学生数	専任教職員数等
校 長			1名
機械工学科	200名	204名	9名
電気情報工学科	200名	211名	11名
電子制御工学科	200名	206名	9名
生物応用化学科	200名	215名	10名
環境材料工学科	200名	200名	9名
数理科			11名
一般教養科			12名*
小 計	1,000名	1,036名 (306名)	72名 (7名)
専攻科学生	40名	59名(13名)	12名(1名)
技術室職員			
事務部(総務課・学生課)			32名(14名)
合 計	1,040名	1,095名 (319名)	116名 (22名)

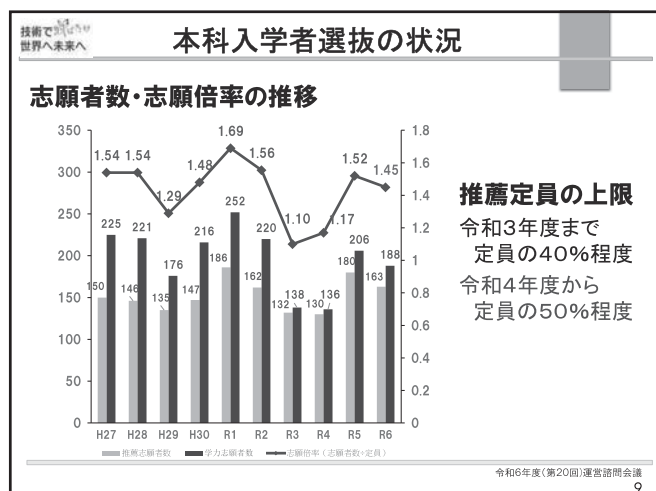
() 内は女性(内数)
*R4採用の外国人教員(英語)1名を含む

令和6年度(第20回)運営諮問会議

新居浜高専の教員内訳								
令和6年10月現在								
学 科	機 械	電 気	電 子	生 物	環 境	数 理	一 般	計
・ 科		情 報	制 御	応 用	材 料			
博士	8名	11名	9名	10名	9名	10名	6名	63名
技術士	1名	-	-	-	-	-	-	1名
修士	-	-	-	-	-	1名	5名	6名
他	-	-	-	-	-	-	1名	1名
計	9名	11名	9名	10名	9名	11名	12名	71名

除校長(1名)、介護支援・他高専交流出向教員(2名)
令和6年度在外研究教員1名(内数)
令和6年度内地研究教員1名(内数)

令和6年度(第20回)運営諮問会議



本科入学者選抜の状況

	令和6年度		令和5年度		令和4年度	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
機械工学科	59人	41人 (6)	60人	41人 (6)	42人	40人 (1)
電気情報工学科	63人	41人 (10)	70人	43人 (13)	45人	42人 (4)
電子制御工学科	65人	42人 (8)	52人	41人 (7)	61人	41人 (7)
生物応用化学科	59人	42人 (33)	80人	42人 (27)	53人	44人 (26)
環境材料工学科	44人	41人 (19)	41人	42人 (21)	33人	42人 (14)
計	290人	207人 (76)	303人	209人 (74)	234人	209人 (52)
女子入学者数 女子比率		37%		35%		29%

注:()は女子で内数を示す。志願者欄は第1志望の学科の志願者を示す。

令和6年度(第20回)運営諮問会議

- ### 入試広報
- 小中学校校長会理事説明・教員向け地区別学校説明会(6・7月)
 - 中学校訪問(6・7月)
進路指導教員向け(総実績:県内外132校)
 - 進路説明会(中学校実施説明会に参加6~11月)
 - 高専フェス大阪(7/14)、高専フェア(8/31-9/9)に参加
 - 夏季体験学習(8月3日(土)、4日(日))
 - ものづくりフェスティン松山(8月24日(土)、25日(日))
 - 学校見学会(オープンキャンパス)(9月21日(土))
中学生&保護者向けの校内見学・模擬授業・ノベルティー配付
 - 国領祭 入試情報コーナー(11月2日(土)、3日(日))
 - 中学生向け広報誌「はばたけ!未来へ」
 - 元中学校長による松山地区入試広報活動(実績:R6は39校)
情報収集に基づく対策検討(入試情報の発信方法など)
※令和6年度からは訪問校を3校追加し、計39校を訪問
- 令和6年度(第20回)運営諮問会議

入学後学生の状況・中学3年生数の推移

在校生の出身地区別状況

地区	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	1学年(専攻科)	2学年(専攻科)	計
新居浜市	81	84	71	80	75	12	11	414(58%)
西条市	36	45	48	39	35	3	5	211(19%)
西条市(専攻科)	29	30	24	22	26	7	2	140(13%)
津島市	29	12	18	19	15	3	4	105(9%)
松山市	6	12	18	12	9	2	1	60(5%)
県外その他	11	16	21	16	18	2	2	86(8%)
県外	16	12	15	20	14	3	2	82(7%)
留 学 生			3	3	2			8(1%)
計	208	211	211	192	192	32	27	1099

※県内中3生約1.1万人、R5新居浜市内中3生の12.4%が本校を受験

中学3年生数の推移

年度	全国	愛媛県	東予4市	本校志願者数	倍率
H30	1,111,742名	11,833名	4,144名	295名	1.48
H31(R1)	1,087,233名	11,285名	3,868名	338名	1.69
R2	1,051,982名	10,813名	3,797名	311名	1.56
R3	1,078,156名	11,178名	3,810名	220名	1.10
R4	1,079,465名	11,233名	3,947名	234名	1.17
R5	1,070,763名	10,938名	3,969名	304名	1.52
R6	1,054,863名	11,033名	3,859名	290名	1.45

令和6年度(第20回)運営諮問会議

令和6年度進路希望及び求人状況				
○進路希望調査結果				
学科名	卒業 予定者数	就職希望	進学希望	その他
機械工学科	37	25	12	0
電気情報工学科	39	18	21	0
電子制御工学科	39	30	9	0
生物応用化学科	43	24	18	1
環境材料工学科	31	21	10	0
計	189	118	70	1
○求人状況（12月末）				
学科名	求人数	就職 希望者数	求人倍率	前年度 就職率
機械工学科	796	25	31.8	100.0 %
電気情報工学科	816	18	45.3	100.0 %
電子制御工学科	804	30	26.8	100.0 %
生物応用化学科	537	24	22.4	100.0 %
環境材料工学科	659	21	31.4	100.0 %
計	3,612	118	30.6	100.0 %

令和6年度（第20回）運営諮問会議

13

高専卒業後の進路（専攻科）				
令和6年度専攻科修了生の就職・進学状況（12月末）				
	就職		進学	
	希望者	就職者	希望者	進学者
生産工学専攻	8名	7名	4名	4名
生物応用化学専攻	2名	2名	1名	1名
電子工学専攻	9名	9名	3名	3名
合 計	19名	18名	8名	8名
令和5年度専攻科修了生の就職・進学状況				
	就職		進学	
	希望者	就職者	希望者	進学者
生産工学専攻	7名	7名	6名	6名
生物応用化学専攻	7名	7名	1名	1名
電子工学専攻	6名	6名	3名	3名
合 計	20名	20名	10名	10名

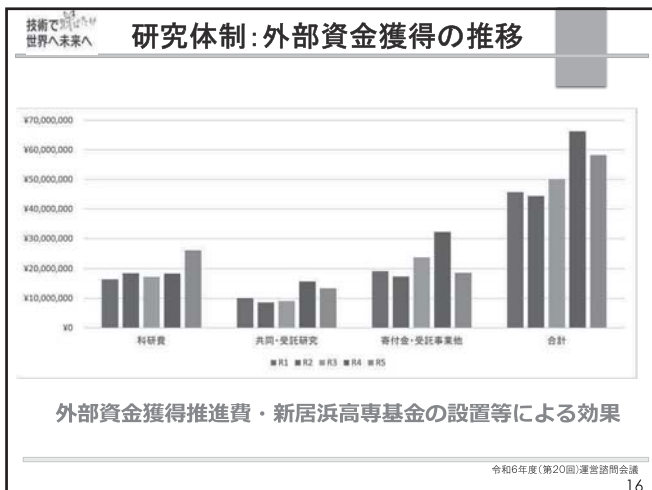
令和6年度（第20回）運営諮問会議

14

高専卒業後の進路（地元就職）									
令和5年度卒業生及び修了生の地区別就職状況									
	四国	(愛媛県内)	(新居浜市内)	中国	近畿	関東	中部	その他	計
本科(名)	46	(39)	(30)	4	33	42	3	1	129
割合(%)	35.7	(30.2)	(23.3)	3.1	25.6	32.6	2.3	0.8	100
専攻科(名)	5	(4)	(4)	0	2	12	0	1	20
令和4年度卒業生及び修了生の地区別就職状況									
	四国	(愛媛県内)	(新居浜市内)	中国	近畿	関東	中部	その他	計
本科(名)	49	(38)	(27)	6	26	36	3	1	121
割合(%)	40.5	(31.4)	(22.3)	5.0	21.5	29.7	2.5	0.8	100
専攻科(名)	4	(4)	(3)		2	5	1	1	13

令和6年度（第20回）運営諮問会議

15



令和6年度（第20回）運営諮問会議

16

教育・研究支援設備	
パラボラアンテナ設備(R4年度納入)	透過型電子顕微鏡による微細組織・結晶方位解析システム(R3年度納入)
CNC旋盤(R4年度納入)	ガスクロマトグラフ質量分析システム(R5年度納入)

令和6年度（第20回）運営諮問会議

17

オンキャンパスの国際化の状況・計画(1)	
《状況》国際化へ向けての教育改善 ○「リベラルアーツ演習」を開設 ○「英会話演習・中国語会話（オンライン）」の導入 《計画及び実施》外国人・留学生との交流促進 ・タイ高専のプロジェクト推進校としてタイ高専留学生を受入 ・本校長期留学生と日本人学生との交流を促進：留学生との交流会 ・新居浜市の国際交流協会と連携して市に在住する外国人との交流促進 ・グローバルエンジニア育成事業（A評価）を活用 → 外国籍教員雇用とカリキュラム改善、協定校増で相互交流を促進 ・第4ブロック取組事業「日台国際カンファレンス」R5～6日本主幹校 ■ 学術交流協定締結校	
サザンクロス大学(オーストラリア)H21.2	重慶工業職業技術学院(中国)H22.10
スラバヤ工科大学(インドネシア)H28.5	国立聯合大学(台湾)H28.9
ポリテクニクSTM(インドネシア)R4.12	永進専門学校(韓国)R6.3
文藻外語大学(台湾)R6.7	国立雲林科学技術大学(台湾)R7.2予定

令和6年度（第20回）運営諮問会議

18

技術で世界へ未来へ

オンキャンパスの国際化の状況・計画(2)

■ **長期国費等留学生受入状況(1985年から総計112名)**
 R5 9名(マレーシア、カンボジア、ラオス、タイ)
 R6 8名(マレーシア、カンボジア、ラオス、タイ、インドネシア)

■ **タイ高専関係**
 KMITL教員派遣 R2.4~R4.3 機械系教授
 教員派遣予定 R9.4~ 電気情報系准教授
 協力教員 R4.9~ タイ高専PJバイオWG 鈴木校長
 KMITL短期研修受入 R5.10 機械・制御4年生1クラス20名
 KMITL短期研修受入 R6.10 機械・制御3年生1クラス22名

■ **日台カンファレンス** (台湾国立聯合大学と第4ブロック高専で毎年開催)
 R5.7 新居浜高専開催(参加者 143名)
 R6.7 台湾で開催(新居浜高専が日本とりまとめ校)

■ **R6短期留学生・教員受入**
 【学生】(台湾) 國立聯合大学 8名、文藻外語大学 5名 (韓国) 永進専門大学校 5名
 ※R6.3 さくらサイエンスプログラム (インドネシア) ポリテクニクSTMIジャカルタ 5名(学生・教員)

■ **R6学生海外派遣**
 トビタテ留学JAPAN 3名 他15名 +タイ高専訪問、語学研修、短期留学等予定

令和6年度(第20回)運営諮問会議 19

技術で世界へ未来へ

事業として取り組んでいるもの(1)

■ **スタートアップ事業・アントレプレナーシップ教育**
 ・OBOG等の外部講師による起業発想力の醸成
 ・「起業挑戦研究会」による起業体験と活動拠点の整備
 ・スタートアップコンペティションによる外部(地域企業)評価
 → R6もコンペを実施
 ・AKATSUKIプロジェクト(経産省) 未踏事業 伊予銀行採択
 「未踏的な地域の若手人材発掘育成事業 LEADING EDGE 四国」参加予定

■ **STEAM 教育**
 「リベラルアーツ演習」(1年生)
 PBL系科目(各学科)
 宇宙人材育成
 「継続的な超小型衛星開発・運用を通じた次世代の高専型宇宙人材育成」

■ **COMPASS5.0 の取組**
 R5より、石川高専とともにCOMPASS5.0蓄電池分野の拠点校として、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムと連携を図りながら、蓄電池に関わる人材を育成するのみならずグリーントランスフォーメーション(GX)社会で活躍できる人材の育成を目指している。今年度本校は、GXに取り組む地域産業・自治体と連携した教育・研究体制を構築する。

令和6年度(第20回)運営諮問会議 20

技術で世界へ未来へ

事業として取り組んでいるもの(2)

■ **GEAR5.0 の取組**
 R4から GEAR-介護・医療(AT)分野および防疫分野の協力校
 R5から AT分野では人材育成カリキュラムを全国展開に向けてMCC、MCCPlus対応への活動中
 R5から バイオ分野で包括協定締結自治体からの受託研究を実施
 R5から AI・数理データサイエンス分野 協力校

■ **KOSEN4.0イニシアティブによりカリキュラム化**
 ・次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)
 現役プラント技術者による実践教育でプラント現場の一流のものづくり技術を身につけ、地域のプラント産業を支え上げる。えひめ東予産業創造Cとの連携。
 ・アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT課程)
 社会実装教育として医療機関と連携し、障がい者・支援者等の視点に立ったいたわりのものづくり技術を身につける。
 Gear5.0-ATへ発展。
 ・人工知能活用人材育成特別課程(AI課程)
 地元企業やえひめ東予産業創造Cとの連携し、AI活用技術を身につける。

令和6年度(第20回)運営諮問会議 21

技術で世界へ未来へ

事業として取り組んでいるもの(3)

施設改修状況

令和3年度補修全面改修済み
 令和4年度機械工学科棟全面改修済み
 令和5年度情報教育センター全面改修済み
 令和6年度学食食堂全面改修要求中
 令和6年度第1体育館全面改修要求中
 令和8年度環境材料工学科棟全面改修要求中 ***
 令和7年度電子制御工学科棟全面改修予定

令和6年度(第20回)運営諮問会議 22

技術で世界へ未来へ

今年度のトピックス

男女共同参画推進室 → R7からダイバーシティ推進室へ

・R6全国高専女子学生入学者 比率上位5高専

高専名	比率%	女子学生数
米子	41.00	82
富山*	38.06	94
新居浜	36.71	76
福島*	35.12	72
宇部*	34.95	72

・R6全国高専女性教授 比率上位5高専

高専名	比率%	女性教授	男性教授
富山	15.4	6	33
沖縄	14.8	4	23
福井	13.8	4	25
函館	12.9	4	27
明石	12.5	3	21

※ビジネス系学科配置高専 高専機構目標35%以上
 新居浜はR7に女性教授登用増 2→4名 14.8%へ
 高専機構目標15%以上

・新居浜はR7に本校初の女性教員管理職(3主事)登用
 R6は全国7高専で3主事登用(55キャンパス中:すべて比率は33.3%)
 ・教職員における障がい者雇用(障害者雇用促進法43条第1項)
 R6新居浜高専3.4% (R6の国及び地方公共団体等の目標値は2.8%以上)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 23

技術で世界へ未来へ

今年度のトピックス

伊予銀行・愛媛銀行と遺贈寄附協定締結(R6.11.11)
 台湾文藻外語大学と学術交流協定締結(R6.7.16)
 松山リハビリテーション病院と連携協定締結(R6.12.6)
 地域貢献(金子小学校「町たんけん」)(R6.11.14)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 24

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

自主性を尊重する校風

挑戦する新居浜高専生

第61回四国地区高等専門学校体育大会で
総合優勝（4年連続）



『第44回全国高等学校クイズ選手権
(高校生クイズ2024)』全国予選を1位通過



第3回高専防災減災コンテストで
国際科学振興財団賞を受賞



第22回キャンパスベンチャーグランプリ
四国大会で特別賞を受賞



令和6年度(第20回)運営諮問会議

25

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～



令和6年度(第20回)運営諮問会議

26

第 19 回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について

	委員からの意見	対応状況
1	人材育成について	
	新居浜市では、令和 6 年度にデジタル技術を活用した起業家創出支援事業を考えているため協力をお願いしたい。	新居浜市と本校との連携協力に関する協定に基づき、産業振興の推進に関する支援事業への協力の依頼があれば、今後も可能な限り協力する。現状としては、にいはま起業家サロンに高専学生 2 名が参加している。
	D X が本格的になりはじめた時に対応できるよう I T 人材育成の強化をお願いしたい。	令和 3 年度に認定された数理・データサイエンス・A I 教育プログラム・リテラシーレベルにおいて令和 4 年度以降修了者を輩出している。また、同プログラム・応用基礎レベルを令和 7 年度に申請する準備をしている。 令和 7 年度入学新 1 年生から B Y O D による P C 必携化の教育体制に移行し、ネットワーク社会におけるモラル教育やセキュリティ教育の充実、及びデータサイエンスや A I を含む最新の情報技術を活用できる人材育成により一層取り組む。
2	地域連携及び社会貢献について	
	愛媛県と新居浜高専で包括連携協定を締結しているが、今後一層の提携をお願いしたい。	現在、東予東部ものづくり次世代人材確保対策事業、アイデア会議、えひめ半導体産業ネットワーク強化事業などで連携しているが、今後も双方および地域にとって有益な形となるように、より一層連携をしていきたい。 「A T 機器作製ワークショップ」を県（保健福祉部・障害者 I C T サポートセンター）と共催し、愛媛大学で実施した。
	デジタル人材育成推進会議や I T 人材バンクの会議に参加をいただいているが、I T 関係で積極的な提言をお願いしたい。	今年 7 月のデジタル人材推進会議では、材料分野の学生の就職についての考え方や現状について発言を行った。

	学生と県内企業のアイデア会議では、学生と企業間で企業の課題解決のディスカッションが行われた。今後もこのような取組を進めていただきたい。	今年度は化学、材料系の企業4社と本校の4年生および専攻科生10名が参加してアイデア会議を実施した。
3	COMPASS5.0 蓄電池分野について	
	COMPASS5.0 蓄電池分野の拠点校に採択されたポイントや4年後にどのような形になっているのか差し支えない範囲で教えていただきたい。	○採択されたポイント ・地元に関わりつきの強いバッテリーの大手素材メーカーがあるため産学連携が期待できる。 ・全ての学科が、バッテリーのサプライチェーンに関係しているため学校としての取組が期待できる。 ○4年後の形 ・地元関連企業に就職する学生の意識改革ができていと考えられる。 ・サプライチェーン関連企業に就職する学生は、どの部分に関わり、注意すべき点は何かわかって作業できる様になっている。
4	起業について	
	高専スタートアップ教育環境整備事業に関連して、学生が特に東予地域で起業をおこなうことによって、若者にとって東予地域が起業しやすい町というイメージに繋がればよいと思うので今後の展開を楽しみにしている。	今年度も起業挑戦研究会で参加テーマを募集して、活動の支援を実施している。年度末にはスタートアップコンペティションを開催する予定である。また、スタートアップ教育環境整備事業で購入した装置が導入された起業家工房の本格的な運用を開始している。
5	人材不足について	
	中学校でも教員不足は問題になっているが、高専では、教員の不足を補うためにどのような業務改善を行っているのかお聞かせいただき参考にしたい。	予算は限られているが非常勤講師活用、開講科目数の削減、学内委員の共有及び委員会削減等、教員不足と教員負担増の対策をしている。また、部活動の安全管理指導員を外部委託し、教員の業務負担を軽減している。また、教員のbusy/empty等の情報はグループウェア(Garoon)で共有し、業務負担の見える化も行っている。

6	人権教育の取組について	
	高専では人権・同和教育の取組はあるか。	1年生の「リベラルアーツ演習」におけるアサーション・トレーニングにより、お互いを尊重しながら適切な自己表現ができるスキルを身につけさせている。この演習を通して、人権意識を高めている。 同和教育に関しては教育委員会から講演会等の案内をいただいている。教職員のマンパワーは限られているが、学生に対する教育を積極的に推進していきたい。
7	その他	
	企業との共同研究、受託研究について、公表できる範囲でどこと、どんな研究を実施したかを公表いただければ他の企業からの依頼が増加するのではないか。	今年度、公開できる体制を整えた。
	企業担当者と教員が接する時に、学生の関心や会社選びの決め手など学生の声を地元企業へご教示いただければ、企業の学生側での学生対応がやりやすいと感じる。	年に複数回、企業との意見交換会で実施している。
	自主性を尊重する校風のブラッシュアップをするために、第1期生を講師に招いて自立やパイオニア精神の講演を行ってみてはどうか。	令和6年11月4日（月）第一期生でハワイ在住の Ted Saeki さんの講演を実施した。

教育に関する事項

教務主事 衣笠 巧

令和6年度(第20回)運営諮問会議 30

本科教育に関する報告内容

今年1年の取り組み

1. 授業関係
2. FD関係
3. 入試広報関係

これからの取り組み

令和6年度(第20回)運営諮問会議 31

1. 授業関係

■ ディプロマポリシー (DP)

ディプロマポリシー(DP) = 卒業認定の方針

各学科毎に「教育上の目的」と「身につける能力」を明示し、これを達成した学生の卒業を認定する

(身につける能力)

- | | |
|----------------|----------------------|
| A. 工学基礎知識 | 数学・物理・化学など |
| B. 専門知識 | 各学科の専門科目・実験実習など |
| C. 問題解決能力 | 各学科のPBL科目・卒業研究など |
| D. 教養 | 国語・社会・保健体育など |
| E. コミュニケーション能力 | 国語・英語・英会話など |
| F. 社会性 | リベラルアーツ演習・インターンシップなど |

それぞれの「身につける能力」を担保する必修得科目を配置することにより
DPを達成できるようにカリキュラムを編成

令和6年度(第20回)運営諮問会議 32

1. 授業関係

■ モデルコアカリキュラム (MCC)

すべての学生が卒業までに習得すべき最低限の目標水準をモデルコアカリキュラム(MCC)として高専機構が提示

- ・コア＝知識・技能を中心に特定分野の科目で達成させる目標
例：(数学)変数分離形の微分方程式を解くことができる。
- ・モデル＝特定の科目に限定されず、多様な教育方法で達成させる目標
例：(創造性)多角的な視点から事象を分析し、対応すべき問題を定義できる。

高専機構から「MCCを包含したDP」を設定することが求められている

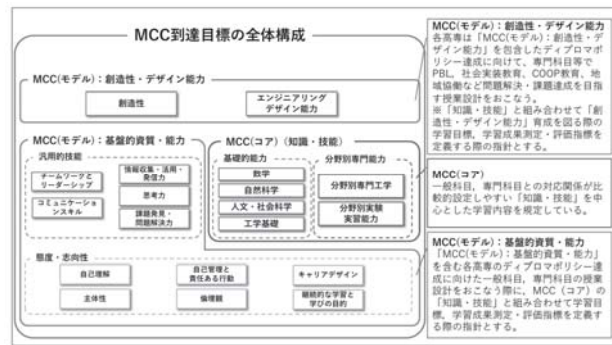
令和7年度入学生から適用できるようにカリキュラム変更を実施

- ・適切な必修得科目の配置
- ・科目の整理(廃止・新設・分割、学修単位化、自由選択科目化)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 33

1. 授業関係

■ MCC到達目標の全体構成

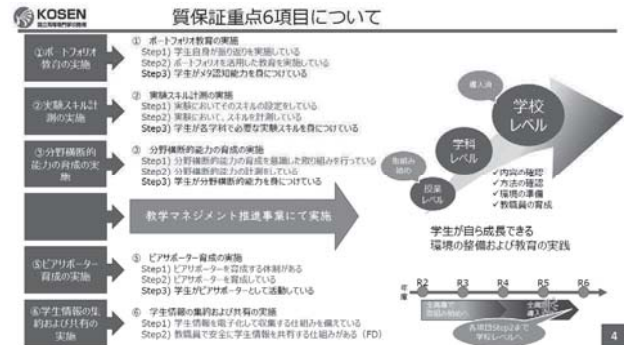


令和6年度(第20回)運営諮問会議 34

2. FD關係

■ 質保証重点 6 項目

質保証重点6項目について



令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ 2. FD関係

■ 分野横断的能力の育成

全3分野 13項目 37小項目

分野横断的能力
社会で必要となるコンピテンシー等の資質・能力

MCC(モデル)の「基盤的資質・能力」と「創造性・デザイン能力」

「基盤的資質・能力」
・汎用的技能
知識に基づく実践を通じて技能を発揮しながら形成される能力
・態度・志向性
思考や行動の根幹にある態度や考え方
「創造性・デザイン能力」
具体的な課題発見、問題解決を目指して身に付ける発展的な能力

汎用的技能
1 コミュニケーションスキル (小項目3)
2 チームワークとリーダーシップ (小項目3)
3 情報収集・活用・発信力 (小項目3)
4 思考力 (小項目3)
5 課題発見力・問題解決力 (小項目3)

態度・志向性
6 自己理解 (小項目2)
7 主体性 (小項目2)
8 自己管理と責任ある行動 (小項目3)
9 倫理観 (小項目2)
10 キャリアデザイン (小項目5)
11 継続的な学修と学びの目的 (小項目2)

創造性・デザイン能力
12 創造性 (小項目3)
13 エンジニアリングデザイン能力 (小項目3)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 36

技術で世界へ未来へ 2. FD関係

■ 分野横断的能力の自己点検

各小項目ごとに次の4段階で自己点検
できる・どちらかといえばできる・どちらかといえばできない・できない

・この結果で学校が学生を評価することはない
・自己点検は毎学年末に実施
・レーダーチャートで表示することで自分の成長を確認できる

各学生 学年平均

令和6年度(第20回)運営諮問会議 37

技術で世界へ未来へ 2. FD関係

■ 科目間調整連絡会

専門基礎科目(数学、物理、化学、英語)について一般教養科・数理科教員と専門学科教員との連携をとるための意見交換会。
・各教科での取り組みや問題点の共有ができた
・専門基礎科目と専門科目のつながりを学生にも伝えてモチベーションを高めることが重要

■ 教員会FD報告

CBT(数学・物理) 全国高専の教員が作成した択一問題テスト
TOEIC IP (国際コミュニケーション英語能力テスト)
年度ごとの変化や学科別の特徴などを分析
教育改善報告
令和6年度は2月25日機械工学科の予定
意見交換を通してさまざまな科目の教育改善につなげる

令和6年度(第20回)運営諮問会議 38

技術で世界へ未来へ 3. 入試広報

■ 入試広報イベント

広報推進室による企画、エンジニアリングデザイン教育センターによる実施

夏季体験学習 8月3日(土)、4日(日)
・中学1～3年生対象の実験体験、保護者向け学校説明
・参加者 延べ669名(R5:848名)

ものづくりフェスタ in 松山 8月24日(土)、25日(日)
・小学4～中学3年生のものづくり講座、保護者向け学校説明
・参加者 延べ117名(R5:136名)

学校見学会(オープンキャンパス) 9月21日(土)
・中学1～3年生対象の全学科見学ツアー・学科別コース
・参加者 延べ254名(R5:259名)

国領祭入試情報コーナー 11月2日(土)、3日(日)
・入場制限なしの受験相談、入試問題解説、学科別紹介
・参加者 延べ469名(R5:478名)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 39

技術で世界へ未来へ 3. 入試広報

■ 入試広報イベント

令和6年度初参加

国公立高専合同説明会 (KOSEN FES)
7月14日(日) 大阪会場
・高専機構主催の小中学生・保護者対象イベント
・会場およびオンラインでの個別説明
・学生による科学教室、学生と高専OB・OGのトークセッション
・参加者 26名(個別相談ブース)、48名(科学教室) 補助学生6名

国立高専合同説明会 (KOSEN FAIR)
8月31日(土)～9月9日(月) オンデマンド開催
・高専機構主催の小中学生・保護者対象イベント
・新居浜高専Webページ、公式YouTube動画(学科紹介など)を出版

令和6年度(第20回)運営諮問会議 40

技術で世界へ未来へ 本科教育のこれからの取り組み

■ 退学・留年対策

退学者

退学者数は約20人でほぼ一定(10年前は約30人)
R5年度は学年差は小さいが、1、2年生が多かった
原因は「成績不振」「メンタル」「専門ミスマッチ」が多い

留年者

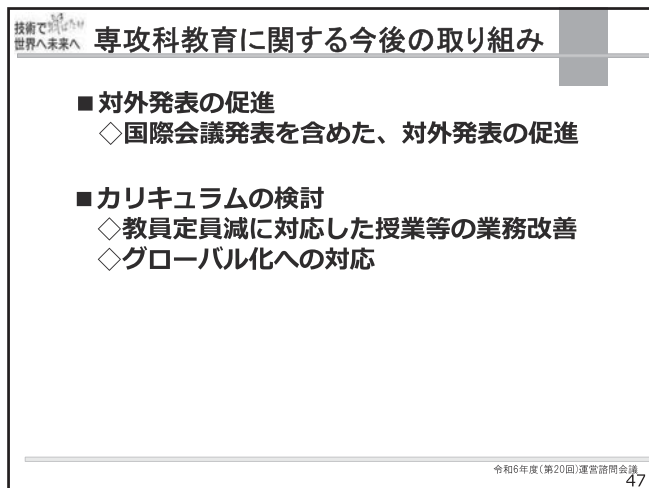
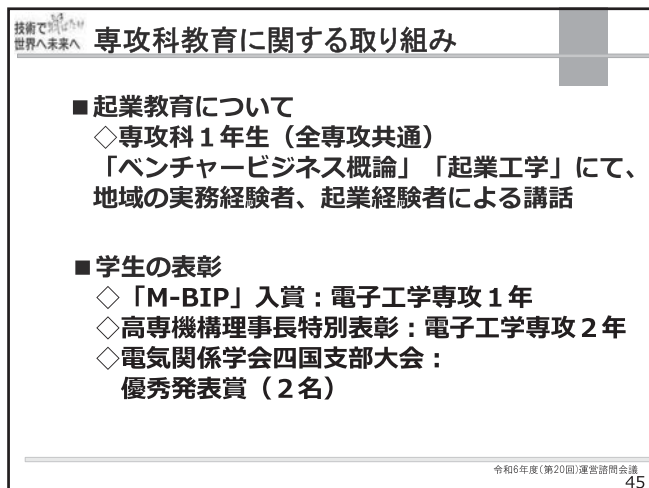
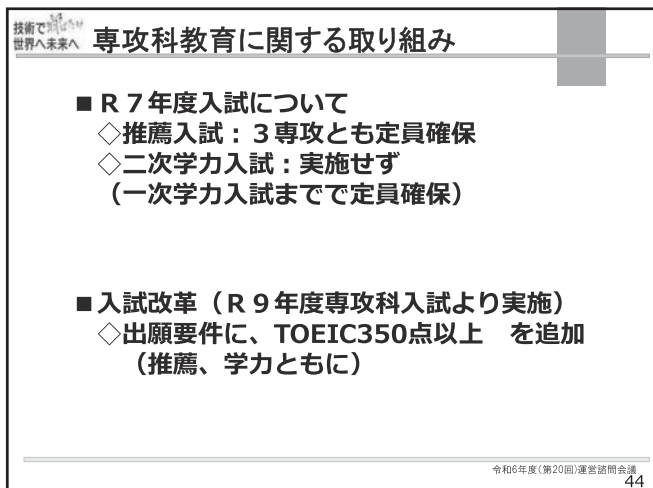
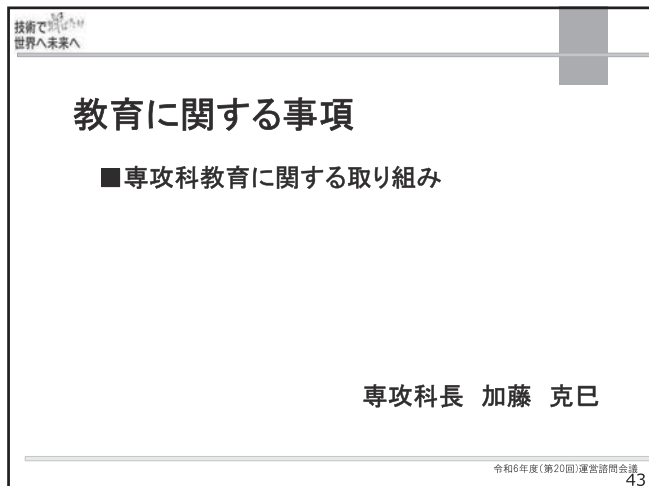
留年者数は25～40人で変動が大きい(10年前は約50人)
R5年度は全体に増加し、特に3、4年生が多かった
原因は「成績不振」「メンタル」「出席不良」が多い

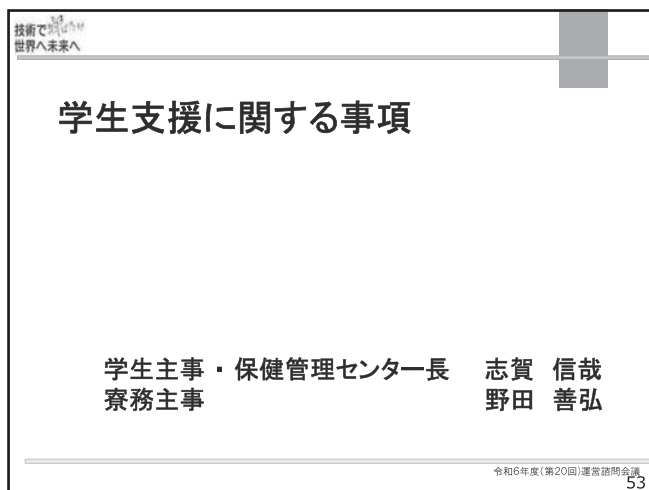
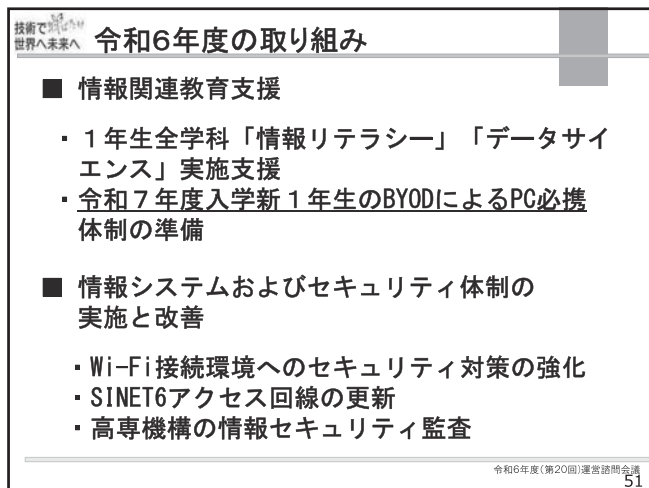
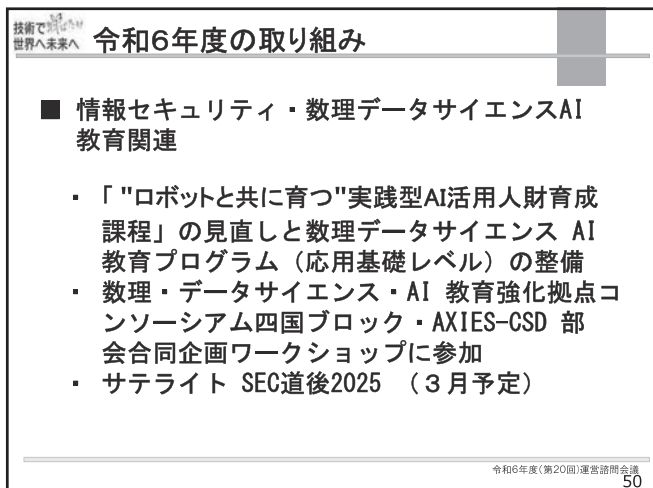
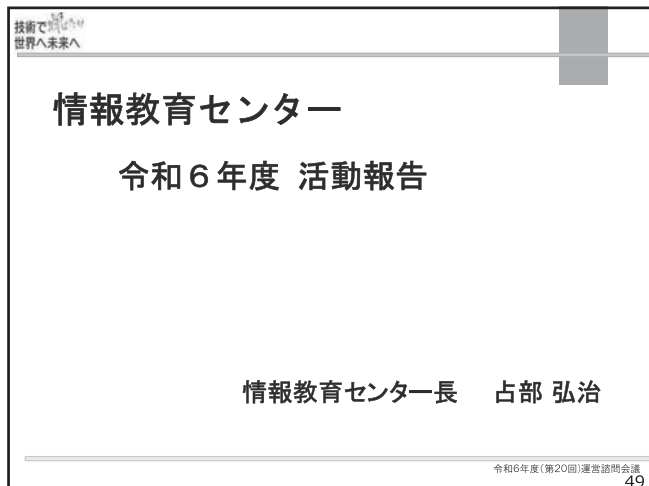
現在の対策

教員会にて現状を共有
学生ティーチングアシスタントによる定期試験前の数学・物理の補習
電子出席簿による教職員全体による学生の見守り
中学生への説明をより丁寧に

退学者数 留年者数

令和6年度(第20回)運営諮問会議 41





技術で世界へ未来へ **学校行事**

(1) 学外研修(キャリア教育)
日程：2024(R6)年5月

1年生 愛知県総合科学博物館 他

3年 電子制御工学科

令和6年度(第20回)運営諮問会議 54

技術で世界へ未来へ **学校行事**

(2) 四国地区高専体育大会
日程：2024(R6)年7月

新居浜開催 バスケットボール

【全国大会出場】
バレーボール男子、サッカー、卓球女子、ソフトテニス
バスケットボール女子、水泳部、バドミントン男子・女子

令和6年度(第20回)運営諮問会議 55

技術で世界へ未来へ **学校行事**

(3) 国領祭
日程：2024(R6)年11月2日(土)、3日(日)

正門アーチ

野外ステージ

※食中毒疑い発生 → 模擬店の衛生管理について検討中

令和6年度(第20回)運営諮問会議 56

技術で世界へ未来へ **学校行事**

(4) 四国地区高専総合文化祭
日程：2024(R6)年12月21日(日)
場所：ハイスタッフホール他(観音寺)

吹奏楽部

奇術部

書道部

ダンス部

令和6年度(第20回)運営諮問会議 57

技術で世界へ未来へ **学生の活躍**

1. 高校生クイズ2024(日本テレビ)
全国予選1位通過 → 全国大会出場
2. Leading Edge 四国(経済産業省事業)
地方の若手人材発掘事業 → 新居浜太鼓祭りアプリ採択
3. Hondaエコマイレージチャレンジ2024
2チーム出場 → 4, 5位(12チーム中)
4. 善行賞(新居浜市教育委員会)
奇術部6名 → 高齢者福祉施設等の訪問

令和6年度(第20回)運営諮問会議 58

技術で世界へ未来へ **交通安全指導**

二輪車安全運転講習 2024(R6)年11月15日

学生主事講話

ビデオ学習

重大な交通事故はゼロ
※2025(R7)年2月7日現在

令和6年度(第20回)運営諮問会議 59

技術で世界へ未来へ 学生支援

1. 規則改訂(検討中)
アルバイト → 1,2年禁止 3年以上は届出制だが・・・
身だしなみ → 染髪・ピアス 1～3年禁止だが・・・
2. ハラスメント対応
相談窓口を集約・周知 → 早期発見 → 組織的対応
3. クラブ活動「技術指導コーチ」制度
通常練習時の技術指導を委託(無償) → 教員負担軽減



令和6年度(第20回)運営諮問会議 60

技術で世界へ未来へ 保健管理センター



令和6年度(第20回)運営諮問会議 61

技術で世界へ未来へ 保健管理センター

学外専門員との連携

臨床心理士・公認心理士
教育カウンセラー
産業カウンセラー
社会福祉士
精神科医
スクールソーシャルワーカー

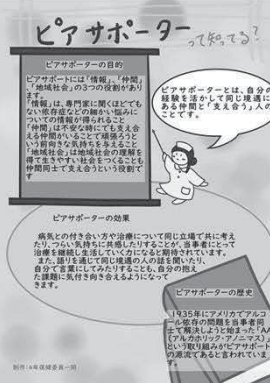
どなたかが毎日来校

令和6年度(第20回)運営諮問会議 62

技術で世界へ未来へ 保健管理センター

ピアサポート体制

- ・各クラスの保健委員をピアサポーターに
- ・学外カウンセラーに指導を受けながらスキルアップ
- ・ピアサポート普及のためポスターを作成し、クラスで報告



令和6年度(第20回)運営諮問会議 63

技術で世界へ未来へ 保健管理センター

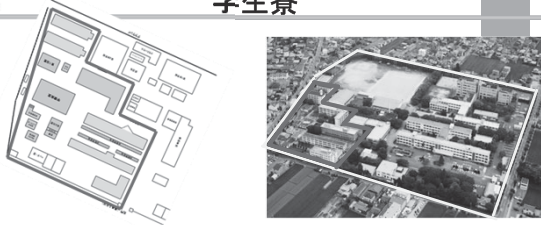
いじめ防止対策

1. アンケート調査
いじめアンケート(2回)、こころと体の健康調査(2回)
2. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携
3. ピアサポーターからの情報
4. 本校が制定した関係資料をHPに公開
「いじめ防止等基本計画」「いじめ防止プログラム」
「早期発見・事案対処マニュアル」

いじめ・悩みの早期発見 → いじめ対策委員会
→ 組織的対応

令和6年度(第20回)運営諮問会議 64

技術で世界へ未来へ 学生寮



寮生数 (1/1現在)

	本科					専攻科		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
寮生数	49	49	58	54	44	3	1	258
女子寮生数	21	17	11	16	14	0	0	79

地区別
愛媛: 190 香川: 12 徳島: 26 高知: 0 他: 22
海外: 8

【昨年との比較】
全寮生数 261→258
女子寮生数 67→79

次年度も女子入寮希望者多数。
次年度はさらに増加する可能性大

令和6年度(第20回)運営諮問会議 65

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

今年度の取組

- ① 交流会（スポーツ大会）を年2回に
新型コロナウイルス感染症への対応として、昨年まで密を避ける目的で分散して毎月開催。今年度より全体で前期と後期に1回ずつ年2回開催に変更。
⇒ コロナ前の形に戻す
- ② 短期留学生の受入
台湾実習生13名を受入（13名中10名は女子）言語の壁を乗り越えて寮生が積極的に交流
- ③ 蛍雪寮改修、まもなく完成へ
向陽寮（現・紬寮）R3改修 → 蛍雪寮 R6改修（まもなく完成）
食堂 → 青雲寮 → 雄風寮 → 松風寮 の順に申請予定

交流会
留学生
蛍雪寮New！

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

今後の課題

- ① 女子寮生の増加による対応
男子寮1棟を女子寮に変更するか？
通学距離等による入寮制限をかけるか？
- ② 寮食堂改修時の食事提供
一部お弁当による提供
学生食堂を活用
- ③ 宿日直など外部委託の拡大
予算措置の必要
- ④ ICT外泊・欠食システム??
管理側の負担軽減
個人情報流出は恐怖／教職員と寮生との接触が減少／予算措置の必要

寮食堂の取組
お寿司バイキング
卒業生対象 テーブルマナー講座
1年生対象 食育講座

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

研究・地域連携、及び 社会貢献活動に関する事項

高度技術教育研究センター長	高見 静香
研究推進部門長	松友 真哉
地域連携部門長	喜多 晃久
高度教育部門長	三井 正
副校長(改革担当)	早瀬 伸樹
エンジニアリングデザイン教育センター長	吉川 貴士

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

高度技術教育研究センター エンジニアデザイン教育センター

1. 研究推進活動
2. 地域連携活動
3. 高度教育活動
4. 高専スタートアップ
教育環境整備事業
5. エンジニアデザイン教育センター

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

1. 研究推進活動

- ・愛媛大学工学部との共同研究(連携研究促進経費 採択3件)
新規1件、継続2件
研究交流会・意見交換会(3/5開催予定 於:新居浜高専)
- ・企業との共同研究・受託研究
新規14件+継続7件=21件(新居浜市内 4件)
- ・科研費採択
新規7件+継続16件=23件(実施件数過去最高を更新)
採択者による学内セミナーの実施
機構本部の査読者ネットワークの活用

令和6年度(第20回)運営諮問会議

1. 研究推進活動

・高専シーズの広報

ResearchMap情報の更新および年間業績報告の刊行(Web公開)
新居浜市役所ロビー展示[2/3~2/7]、新居浜高専工業技術
懇談会[3月予定]、新居浜高専研究シーズ集16の刊行(Web公開)

・教員・学生の研究表彰等

- 第22回キャンパスベンチャーグランプリ四国大会で学生が特別賞を受賞[生物応用化学科4年生]
- 国際会議9th STI-Gigaku2024 Best Research Presentation Award[環境材料工学科5年生]
- 電気学会優秀論文発表賞を受賞[電子工学専攻2年生-2件]
- 日本材料科学会「功労賞」受賞[環境材料工学科教員]

令和6年度(第20回)運営諮問会議 72

2. 地域連携活動

《自治体等との連携》

- 「愛媛県東予地方局ものづくり人材確保事業」への協力
企業との意見交換会：教員延べ20名、企業延べ20社が参加
ものづくり企業体験イベント：学生2名参加
ものづくり企業出張講座：企業20社、学生400名(3,4年生)
高専OB/OGによる情報発信【高専color】：8名参加
高専OB・OGと学生との交流会：低学年学生80名参加

・連携協定

- 愛媛県、新居浜市、宇和島市、鬼北町、伊予銀行、愛媛大学、西条高校、えひめ東予産業創造センター、NEW!松山リハビリテーション病院
- 鬼北町 共同研究「鬼北町由来微生物を用いた発酵食品の開発」新規連携活動 学生による鬼北町への出前講座：遺伝子組換え実験⇒1~4年生の学生(4名)が講義・実験指導
- 新居浜市 共同研究「七福芋の機能性調査」継続
- 新居浜市IoT推進ラボへの協力
- 愛媛県デジタル人材育成推進会議への参画

令和6年度(第20回)運営諮問会議 73

2. 地域連携活動

《自治体等との連携》

- ・愛媛県との連携
⇒東予東部ものづくり次世代人材確保対策事業、アイデア会議、えひめ半導体産業ネットワーク強化事業など
- ・西条高校SSHへの協力 教員5名
- ・新居浜高専市民講座(新居浜市生涯学習大学主催) 6回
⇒新たに学生(1年生6人)の発表も取り入れ、好評だった

《新たな地域連携の模索》

- ・国領祭「企業紹介ブース」の試験的出展(2日目午前の3時間)
⇒協力企業4社：学生、一般の方あわせて約200名が来場



アイデア会議



市民講座(学生の発表)



国領祭企業ブース

令和6年度(第20回)運営諮問会議 74

3. 高度教育活動

・出前講座 15件

・日本弁理士会学生向け知的財産セミナー 3年全クラスにて実施

・スタートアップ教育用機器の利用方針を定め運用開始(8月)

・特別課程

- ・次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)
4年生4名、5年生9名(R6年度)
- ・アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT課程)
4年生10名、5年生8名(R6年度)
- ・人工知能活用人材育成特別課程(AI課程)
基礎9名、応用1名(R6年度)



PE課程 電気実習

令和6年度(第20回)運営諮問会議 75

3. 高度教育活動



設立行政法人国立高専専門学校機構
蓄電池人材育成事業 拠点校としての活動

主な取組事例

- 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムとの連携
 - 高校生・高専生を対象とする「バッテリーに興味関心を持ってもらう」ことを目的とした教育プログラムを開発(Step1教材)
 - 現在、13高専にて利用中
- 令和6年度エネルギー需給構造高度化対策に関する調査等委託事業(蓄電池の教育・広報)への協力
 - 高専や大学など、すでにある程度専門分野を学んだ学生を対象とする教育プログラムの作成協力(Step2教材)
- 11月と1月にStep1,2教材のデモ授業を実施(1月は全国の高専に公開)
- 9月に、3年生40名がパナソニックエナジー徳島工場見学
- 姫路工業高校のマイスターハイスクール事業に協力
- ニッケル水素、リチウムイオン電池の学生実験テーマ作成に向けて活動中(3月に、他高専を招いて研修会を予定)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 76

4. 高専スタートアップ教育環境整備事業 スタートアップ教育

1. 高専生が将来の選択肢の一つとして起業を知ろう

- DCON2025特別講義(4年生約120名)
日本ディーブローニング協会専務理事 岡田 隆太郎氏
Spiral AI株式会社 代表取締役 佐々木 雄一氏
株式会社日立産業制御ソリューションズ 池田 慎太郎氏
NECソリューションイノベータ株式会社 鶴田 和矢氏
- 授業の一環として実施
経営工学(本科5年)
起業工学(専攻科1年)
ベンチャービジネス概論(専攻科1年)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 77

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

4. 高専スタートアップ教育環境整備事業

スタートアップ教育

- 起業家工房の運営**
 - ・ガス加圧3D質量分析計 1台
 - ・3次元プリンター 4台
 - ・卓上型3次元スキャナ 1台
 - ・ハンディ型3次元スキャナ 4台
 - ・レーザーマーカ 1台
 - ・VRセット 6台
- 起業挑戦研究会の設置**
 - ・3件のテーマを採択（スタートアップコンペティションで報告予定）
- 高専生のスタートアップコンペティション**
 - ・2月20日に本校で開催予定

令和6年度(第20回)運営諮問会議

78

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

5. エンジニアリングデザイン教育センター

- ・センター員（教員）：8名
- ・技術室（技術職員）：14名

ものづくり
工房

あかがね
工房

アイデア通り
工房

主な業務

- ・各学科の実験・実習及び卒業研究等の**教育研究支援**に関すること
- ・**ものづくり課外活動の支援**に関すること
- ・**地域連携**による技術交流・支援に関すること
- ・機械及び材料実習工場の**管理・運営**に関すること
- ・**アイデア通り工房の管理・運営**に関すること
- ・技術室の業務目標・計画及び評価に関すること
- ・**技術室職員の研修計画**に関すること
- ・その他**ものづくり教育及び地域等との技術交流の推進**に関すること

令和6年度(第20回)運営諮問会議

79

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

5. エンジニアリングデザイン教育センター

<具体的事例>

- ものづくり支援**
 - ・特業研究・特別研究支援
 - ・国領祭科展示支援について
 - ・学生への基板加工機の使用法の講習
- 出前講座(技術職員主導)**
 - ・6面パズル2×2を作ろう 1件
 - ・不思議なおもちゃで遊びましょう 3件
- 資格取得など**
 - ・第3種電気主任技術者試験（取得日：令和6年6月20日）
- 研修参加**
 - ・令和6年度前期発達支援スキルアップ講座
 - ・愛媛大学技術職員技術発表会
 - ・令和6年度後期発達支援スキルアップ講座
 - ・令和6年度KOSENフォーラムにて**発表**
 - ・2024年度計測自動制御学会 四国支部学術講演会にて**講演**

令和6年度(第20回)運営諮問会議

80

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和6年度(第20回)運営諮問会議

81

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

国際交流に関する事項



タイ高専(Kosen KMITL)・留学生等×国際ボランティアチーム (International Exchange Club)

グローバル教育センター長 野田 善弘

令和6年度(第20回)運営諮問会議

82

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

数値目標達成状況

新居浜高専の国際交流に関する数値目標

※令和2年度の運営諮問会議の提言を受けて令和3年度に設定
(令和8年度までの到達目標→残された時間は2年間)

- TOEICスコア 卒業時平均400点 → ×**

令和6年度	5年生平均点の推移
353点	令和3年度 296点
	令和4年度 339点
	令和5年度 354点
- 派遣・留学人数 50名 → ○**
63名 昨年より13名増加
- 短期実習生受入人数 10名 → ○**
40名 昨年より2名増 台湾・韓国・タイ

令和6年度(第20回)運営諮問会議

83

今年度の取組

【今年度の取組：キャンパス国際化】

・外国人の活用

外国人教員雇用（次年度から2名）

協定校からの短期実習生受入（中国語教育実習・英語教育実習・専門実習）

次年度から実習生に奨学金（JASSO協定受入）を支給し、受入数増加につなげる

・学生のグローバルマインド・国際的コミュニケーション能力の育成とキャリアアップ

オンライン英会話 DMM英会話 今年度30名の学生が受講（最多）

オンライン国際交流（文藻外語大学日本語学科と日本語で交流 9名参加）

グローバル×キャリア講演会（海外で働く卒業生や外国人が講演）

国際交流ボランティア（IEC）の養成（訪問学生の生活サポート）

1年生リベラルアーツ演習（SDGs、アクティブラーニング）

★海外研修は語学研修よりも専門研究・キャリアに向けた研修を

令和6年度（第20回）運営諮問会議

84

今年度の取組

【今年度実施した海外研修】

研修	派遣先	日程	種別	対象学年	募集人数	必要経費	参加人数
NIU-NIT合同カンファレンス	台湾・苗栗	2024年7月13日～7月16日	国際会議	研究発表者	11名	12万	8名
韓日共同高等教育プログラム（永進専門大学校専門研修）	韓国・大邱	2024年8月19日～9月4日	インターンシップ	18歳以上	4名 IT 3名 観光 1名	5万	4名
文藻外語大学中国語研修	台湾・高雄	2024年8月25日～9月7日	語学研修	本科1・2年	10名	25万	1名
タイ高専短期研修旅行	タイ・バンコク	2024年8月6日～8月12日	短期研修旅行	全学年	10名	20万	10名
国立聯合大学専門研修	台湾・苗栗	2024年8月17日～9月21日	インターンシップ	本科3年以上	5名	25万	0名
日立ハイテク台湾・工場見学	台湾・台南/嘉義	2024年9月18日～9月21日	短期研修旅行	本科4年生	新千名	10万	3名
国立聯合大学専門研修	台湾・苗栗	2025年3月3日～3月30日	インターンシップ	本科3年以上	2名	20万	2名
韓国大邱英語村語学研修	韓国・大邱	2025年3月5日～3月18日	語学研修	全学年	15名	22万	15名
ヤザンクロス大学英語研修	オーストラリア	来定（3月中、2週間）	語学研修	全学年	15名	60万	0名
国立雲林科技大学短期旅行	台湾・斗六	2025年3月25日～3月27日	短期研修旅行	3年以上	新千名	10万	6名

他にトビタテ留学JAPANや外部エージェント、国際学会などを加算して60名以上が海外へ

単なる交流、語学研修もよいが専門研究や将来の職業を意識して

令和6年度（第20回）運営諮問会議

85

今年度の取組：グローバル×専門×キャリア

海外での専門研究とキャリアアップ

【7/14-15】第7回NIT-NUU日台国際カンファレンス

台湾国立聯合大学と中四国地区高専で毎年開催。今年度は、台湾苗栗にある聯合大学八甲キャンパスで開催され、新居浜高専から教職員8名、学生9名が参加、英語で研究発表しました。



【8/6-12】KOSEN-KMITL（タイ高専）で実験・実習

10名の本校学生がタイ高専で実験・実習などの授業に参加。授業は英語だったので大変でしたが、タイの学生の手助けで乗りこえました。学生交流とタイの文化体験も楽しめました。



【8/19-9/4】第3回韓日共同高等教育プログラム

韓国永進専門大学校で学部・津山・呉・松江・高知・新居浜、6高専の学生が韓国語と専門を学びました。内容は1Tと観光の2コース。本校から4名の学生が参加しました。



【9/18-21】日立ハイテク台南工場（台湾）の見学

3名の本校学生が台湾台南市の日立ハイテク台南工場を見学。昨今注目されている半導体の最先端工場で働く高専出身者のみなさんのお話はとても刺激的で貴重な経験となりました。



このほか、3/2-30に2名の学生が国立聯合大学で実習を行う予定。
2/27に学術交流協定を締結する雲林科技大学への訪問（3/26）も予定している。

令和6年度（第20回）運営諮問会議

86

今年度の取組：グローバル×専門×キャリア

国内 グローバル×キャリア講演会

【11/4】TED Soeki氏のグローバル×キャリア特別講演会

本校の第一期生で現在ハワイ在住のTED Soeki（佐伯 諭郎）氏特別講演会を開催。高専生活の思い出、ハワイでの勤務、ハワイの美しい風景や食など、楽しいお話を聞くことができました。



【12/9・10】アラ氏のマレーシア文化に関する特別講演

ムスリム女性であるアラ氏を招き、マレーシアやイスラム教について講義していただきました。学生の質問に回答するという形で進行し、異文化理解のおもしろさを実感しました。



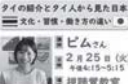
【12/16】雲林科技大学（台湾）半導体人材育成事業説明会

雲林科技大学は、半導体業界を牽引するTSMCの委託を受けて半導体人材育成に取り組んでおり、日本の高専卒業生を受け入れるプログラムを始動。教員向けの説明会を実施しました。



【2/25】ヒム氏のグローバル×キャリア特別講演会（予定）

タイ・バンコク出身、SNSでタイ語やタイ文化を発信するヒムさんを招き、日本と異なる価値観をもつ、タイ人の考え方にふれてみようという試みです。



学生たちに今後のキャリアアップに役立つ企画を提供

令和6年度（第20回）運営諮問会議

87

今後の取組

◆協定校等との交流（予定） 赤字は次年度の実施を検討中

台湾国立聯合大学⇒【受入】中国語教育実習生（1か月）

【受入】理工学院専門実習（1か月）

【派遣】夏季・春季専門研修（1か月）

台湾文藻外語大学⇒【受入】中国語・英語教育実習生（5か月）

【派遣】中国語研修派遣（2週間）

オンライン交流（週1回 3か月程度）

韓国永進専門大学⇒【派遣】韓日共同プログラム（3週間）

【派遣】大邱慶北英語村英語研修（2週間）

台湾国立雲林科技大学⇒【派遣】夏季専門研修（1～2週間）

中国重慶工業職業技術学院⇒【派遣】研修旅行（1週間）

フィリピン（セブ）語学研修⇒【派遣】夏季・春季（2週間～）

令和6年度（第20回）運営諮問会議

88

今後の取組

KOSEN KMITL（タイ高専）との交流

残念ながら1か月研修は今年度で終了です

今後の交流計画（本科長期留学生受入を除く）

R7/4/20～26 低学年学生の受入

タイ高専専攻科生の研究生受入計画あり

タイ高専短期研修旅行・キングモンクット大学との協定

R7/6-7月 タマサート大学（タイ）研究室受入



台湾聯合大、文藻外語大 市長表敬



韓国永進専門大学校 市長表敬



タイ高専学生 市長表敬



新居浜市国際交流協会の協力
SDG/カインドラフ/日本語の会



中国漳州工程職業学院 来校



雲林科技大学教員 市長表敬

新居浜市には本校の国際交流に対して多大な支援をいただいています

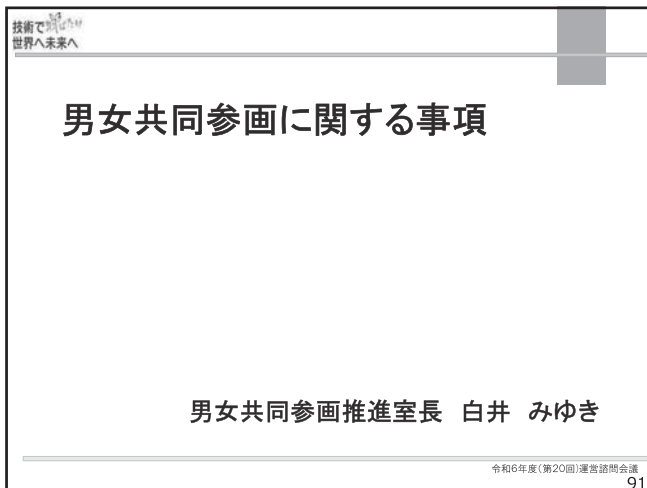
今後ともよろしくお願い申し上げます

令和6年度（第20回）運営諮問会議

89



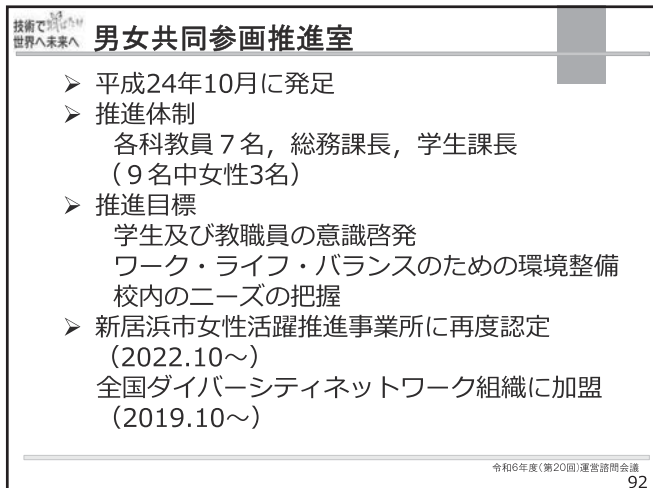
令和6年度(第20回)運営諮問会議 90



令和6年度(第20回)運営諮問会議 91

男女共同参画に関する事項

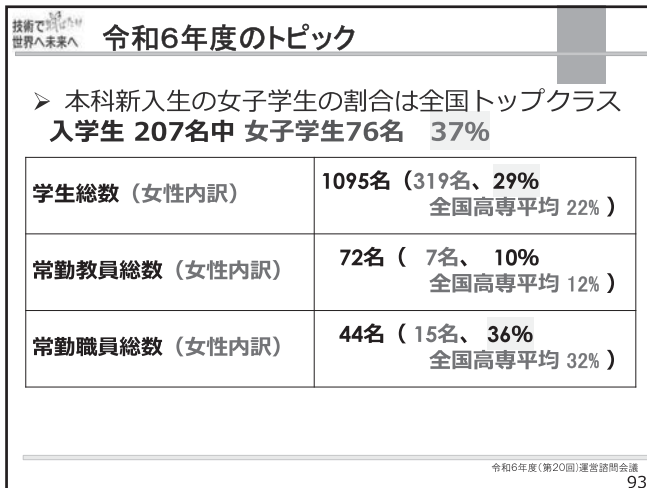
男女共同参画推進室長 白井 みゆき



令和6年度(第20回)運営諮問会議 92

男女共同参画推進室

- 平成24年10月に発足
- 推進体制
各科教員 7 名, 総務課長, 学生課長 (9 名中女性3名)
- 推進目標
学生及び教職員の意識啓発
ワーク・ライフ・バランスのための環境整備
校内のニーズの把握
- 新居浜市女性活躍推進事業所に再度認定 (2022.10~)
全国ダイバーシティネットワーク組織に加盟 (2019.10~)

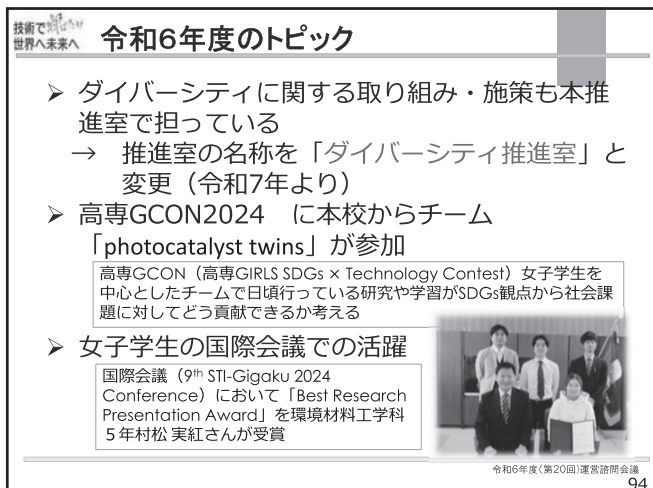


令和6年度(第20回)運営諮問会議 93

令和6年度のトピック

- 本科新入生の子女子学生の割合は全国トップクラス
入学生 207名中 女子学生76名 37%

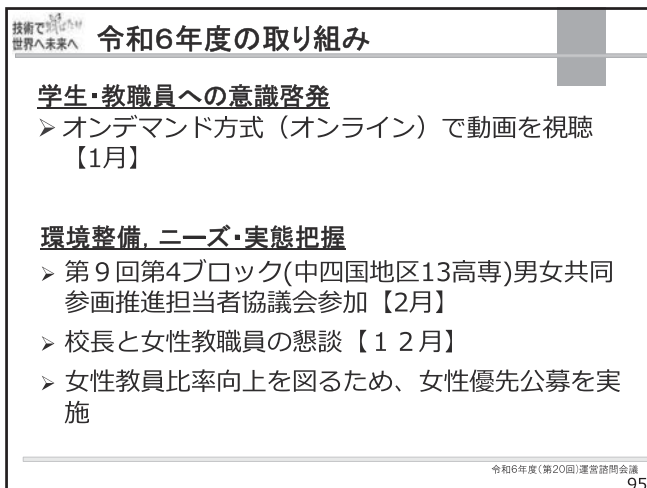
学生総数 (女性内訳)	1095名 (319名、29% 全国高専平均 22%)
常勤教員総数 (女性内訳)	72名 (7名、 10% 全国高専平均 12%)
常勤職員総数 (女性内訳)	44名 (15名、 36% 全国高専平均 32%)



令和6年度(第20回)運営諮問会議 94

令和6年度のトピック

- ダイバーシティに関する取り組み・施策も本推進室で担っている
→ 推進室の名称を「ダイバーシティ推進室」と変更 (令和7年より)
- 高専GCON2024 に本校からチーム「photocatalyst twins」が参加
高専GCON (高専GIRLS SDGs × Technology Contest) 女子学生を中心としたチームで日頃行っている研究や学習がSDGs観点から社会課題に対してどう貢献できるか考える
- 女子学生の国際会議での活躍
国際会議 (9th STI-Gigaku 2024 Conference) において「Best Research Presentation Award」を環境材料工学科 5 年村松 実紅さんが受賞



令和6年度(第20回)運営諮問会議 95

令和6年度の取り組み

学生・教職員への意識啓発

- オンデマンド方式 (オンライン) で動画を視聴【1月】

環境整備、ニーズ・実態把握

- 第9回第4ブロック(中四国地区13高専)男女共同参画推進担当者協議会参加【2月】
- 校長と女性教職員の懇談【12月】
- 女性教員比率向上を図るため、女性優先公募を実施

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

今後の課題

- 取組みの検証を行いながら、推進活動を継続する
- ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知
- 研修会等を実施し、男女共同参画意識の浸透を図る
- 地域との連携体制の維持
- ニーズを把握し対応策を検討する
(育児・介護に関するアンケートの検討など)

令和6年度(第20回)運営諮問会議 96

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～

令和6年度(第20回)運営諮問会議 97

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項

副校長(評価担当) 日野 孝紀

令和6年度(第20回)運営諮問会議 98

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(1)

◆ 運営諮問会議
『新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程(抜粋)』
(設置)
第1条
地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するために本会議を置く。

(審議事項)
第2条
(1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
(2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

令和6年度(第20回)運営諮問会議 99

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(2)

点検・評価の体制

令和6年度(第20回)運営諮問会議 100

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

点検・評価に関する事項(3)

◆ 高等専門学校機関別認証評価(7年毎、次回R10(2028)年)

大学改革支援・学位授与機構

3巡目: 適合
8基準、68観点、212確認項目

4巡目: R7(2025)～
37基準、95観点、191確認項目

改善事項

- ※学校構成員及び学外関係者からの意見聴取
- ※内部質保証に係る関係委員会の議事等のプロセス

◆ 自己点検・評価(毎年)

新自己点検・評価(案)

10基準、21視点、66観点 → 6領域、30基準、88観点

令和5年度 自己点検・評価表

R6第4回点検・評価運営委員会

新自己点検・評価表
R7新自己点検・評価表brush up
R8新自己点検・評価表
R10(2028)年受審=R8実績をR9評価

令和6年度(第20回)運営諮問会議 101

技術で  世界へ未来へ

点検・評価に関する事項（４）

◆ 監事監査（５年毎、次回R10(2028)年） 

評価基準

(1)内部質保証のための取組
(2)特色ある取組・優れた取組
(3)業務の削減と効率化
(4)校長のリーダーシップ
(5)各高専における課題・その他特記事項
(6)前回監査における指摘事項FU

令和6年8月29日付け結果報告書
総合的所見
「組織及び教育研究活動の全般について、
注意すべき特に重大な問題点はなかった。」

・好事例(◎)：35項目
・評価事項(○)：37項目
・要改善事項(▲)：3項目
・検討推奨事項(△)：10項目

13項目 85項目

R6第5回点検・評価運営委員会

監事監査結果対応表(改善状況、対応計画、エビデンス)

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で  世界へ未来へ

点検・評価に関する事項（５）

◆ 高等専門学校認定専攻科レビュー（５年毎、次回R11(2029)）

本年度受審

独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

特例適用専攻科：学士の学位の授与に係る特例の適用認定を受けた専攻科

・専攻科の概要
・専攻科と基礎となる学科との連携
・学則及び専攻科に関する規則
・専攻科授業科目を担当する教員の経歴
・専攻科の全授業科目
・専攻科授業担当教員の個人調書

教育システム
教員の実績

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で  世界へ未来へ

点検・評価に関する事項（６）

◆ 「教学IR室」（令和５年度設置）

教学マネジメント
「教育目的を達成するため
に行う管理運営」
教学マネジメント事業報告
R5第6回点検・評価運営委員会
R63月19日中四国ブロック報告会

Case 1
アンケート結果の電子化
自動集計
可視化
・卒修生アンケート
・卒修生の上司アンケート
・求人求職企業様アンケート
R5第10回教員会
R6第2回運営会議
DP(卒修要件)に関して
・能力と状況
・社会ニーズ

Case 2
教学マネジメント
「到達度が低いMCC到達目標」
R6第2回点検・評価運営委員会
RQ
↑AR
教学IR
カリキュラム変更
学生毎の修得科目とMCC達成状況
R6第3回点検・評価運営委員会

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で  世界へ未来へ

点検・評価に関する事項（７）

◆ 「国立高専教育国際標準(KIS)」(6年毎、次回R12(2030))
(KIS; KOSEN International Standard) 

○国際的な教育の質保証の枠組み
○高専の本科教育(5年間)の質保証を国内外に明示
R6年 5月 20日：KIS自己点検書・点検シート提出
R6年10月7-9日：実施評価

評価チーム 日工教

基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開 S(S, S) ?
基準 2 教育手段 W(W, S, S, S, S) ?
基準 3 学習・教育到達目標の達成 D(W, D) ?
基準 4 教学マネジメント活動による教育改善 S(S, S) ?

D評価： MCCの各科目への紐づけが完全でなく、MCCで定められた到達目標を達成せずに卒業する学生がいる

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で  世界へ未来へ

点検・評価に関する事項（８）

◆ 各種調査

・学生と学科及び専攻科との懇談会
R6第4回点検・評価運営委員会

・学校評価アンケート(卒業及び修了を控えた学生)
R5第6回点検・評価運営委員会

学生からの意見・要望数 133

回答	学科	所掌部門	小計
授業	47	23	70
生活	3	31	34
設備	6	23	29
回答・検討・改善数			133

5年生 専攻科2年生

	5年生	専攻科2年生	5年生	専攻科2年生
教育SYS	96%	88%	工学基礎	98%
教員	94%	88%	専門	98%
生活	97%	100%	問題解決	96%
進路支援	96%	100%	教養	97%
施設	94%	85%	COM法	94%
			社会性	97%

新居浜高専に満足 96% 100%

・校内役職者アンケート(役職者に対する意見)
R6第9回運営会議

意見・要望数 13
回答数 13

令和6年度(第20回)運営諮問会議

技術で  世界へ未来へ

新居浜高専の点検・評価に関する事項

本校の
✓運営基本方針
✓教育研究計画
✓教育研究活動
✓地域連携活動
など...
ご意見ください。

技術で  世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和6年度(第20回)運営諮問会議

令和6年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和7年1月1日現在)

年度計画	進捗状況
1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1. 1 教育に関する事項 (1)入学者の確保 ①-1.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。 ①-1.2 本校PR関連ページを改良して、小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載する。ページレイアウトなどを改善し、より分かりやすい内容となるよう検討する。 ①-1.3 YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。 ①-1.4 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。 ①-1.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行い、今後の広報活動に活かす。 ①-1.6 学校紹介ビデオを新しいものに更新する ①-1.7 入試広報誌・広報カレンダー、進路説明会用リーフレットを作成し中学生へ配布する ①-1.8 包括連携協定を結んでいる愛媛県、新居浜市の施設に高専PRコーナーを設置して広報を行う。 ①-1.9 国公立高専合同説明会に参加し、組織的に入学者の確保に取り組む。	1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1. 1 教育に関する事項 (1)入学者の確保 ①-1.1 5月末に本校の校長・教務主事が愛媛県小中学校長会の理事校を訪問し、校長と進路指導主事に本校の概要を説明した。 ①-1.2 本校PRページを改良し、イベント情報や入試情報を随時更新し、小中学生及び保護者などに、より分かりやすい内容に改善した。 ①-1.3 学校紹介動画の作成に伴いコンテンツのアップデートを今年度中に行う予定である。 ①-1.4 実施している。 ①-1.5 入学年度別志願状況においては、広報推進室会議資料作成の参考としたほか、効果的な広報活動(進路説明会の際の手持ち資料)に活用した。 ①-1.6 シナリオ作成、撮影準備を行っており年度末に納品できる予定である。 ①-1.7 入試広報誌・広報カレンダー、進路説明会用リーフレットを作成し中学生へ配布した。 ①-1.8 県立科学博物館への学校紹介冊子の配架を依頼した。 ①-1.9 国公立高専合同説明会(KOSENFES)に現地参加し、組織的に入学者の確保に取り組んだ。
①-2 広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るような以下の広報活動を効果的に行う。 ①-2.1 中学校訪問は、進路指導主事、3年生学年主任等を対象に、本校の概要、特色、入試、進路状況、学寮、必要経費等の説明を行うとともに、志願者等の情報収集を行う。また、中学校主催の進路説明会には必ず教員を派遣し、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行う。 ①-2.2 地区別学校説明会では、中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行い理解を深めてもらうとともに、各校における進路指導の状況等について情報交換を行う。 ①-2.3 入試広報イベントとしては、夏季体験学習、ものづくりフェスタ(中予地区)、オープンキャンパス、学園祭における入試情報コーナー(入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等)を実施する。参加についてWeb申込を採用し受講生の利便性を向上させる。 ①-2.4 中予地区の入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を実施する。 ①-2.5 新居浜市及び他機関と連携して設立した「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として教員を派遣し、各種イベントへの学生参加を通して新居浜高専の魅力を発信する。	①-2 対面式の入試広報イベントをすべて実施し、志願者確保のための広報活動を効果的に実施した。 ①-2.1 愛媛県全域、香川県西部地区、徳島県西部地区への中学校訪問を行った。また、中学校主催の進路説明会にも例年通り参加し、中学校訪問を兼ねて説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行った。 ①-2.2 地区別学校説明会は松山地区、今治地区、三好地区、東予地区にて校長と教務主事が中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行った。また、各校における進路指導の状況等について情報交換を行った。 ①-2.3 入試広報イベントは、夏季体験学習、ものづくりフェスタin松山、学校見学会(オープンキャンパス)を行った。学園祭における入試問題解説コーナー等を実施する予定である。また、本年度からWeb申込を採用し、参加者の利便性向上、中学校や教職員の負担軽減に努めた。 ①-2.4 入試広報コーディネータによる広報活動を行った。また、本年度から訪問校を増やし、効果的な広報活動を行った。 ①-2.5 東予ものづくり祭実行委員会に教員として参加している。また11月に行われるイオンでの缶コプターのイベントに参加予定である。
①-3 新居浜市を中心に、近隣の西条市、四国中央市の小中学校からの出前授業依頼を受けつける。理工系人材の早期発掘を見込んで、ものづくり系、理科実験系、プログラミング系やSDGsに関連する出前授業を準備する。また小中学校の学習指導要領における単元との関連を明示することで依頼側の小中学校教諭が具体的に授業内でどのように組み込むかを考慮できる工夫をし、利用を促す。新居浜高専の地域連携のWebページ上に「小中学生向け出前サイエンス講座」として公開しオンラインで申し込み可能とする。	①-3 出前授業のコンテンツをSDGs、プログラミングなどを含めて用意しており、Webページにて小中学校への募集を行っており、オンラインでの申し込みができるようにしている。また出前授業の内容紹介においてどの単元、SDGsに関連するかを明示しており、それをもとに小中学校の先生がどの授業に組み込むのが良いかわかるようにしている。
②-1 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。また、高専GCONに、昨年度に引き続き参加&入賞を目指して、学内で周知・支援を行う。	②-1高専GCONに、昨年度に引き続きエントリーを2チームが行い、そのうち1チームが参加に向けてのインタビューまで進んでいる。高専女子フォーラムについてはまだ情報を入手していないが、引き続き参加支援をしていく予定である。

年度計画	進捗状況
②-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。 ②-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。 ②-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。 ②-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。 ②-2.5 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。 ②-2.6 日本語の支援について、学内の非常勤講師のみならず、新居浜市や第4ブロックとも協力関係を築いて充実させる。	②-2.1 地域と留学生との交流行事(留学生母国紹介)を行い、支援をお願いした。 ②-2.2 英文併記の学校案内を発行するなど、広報活動を行った。 ②-2.3 留学生対象の行事はHPにおいて公開した。 ②-2.4 台湾文藻外語大学と協定締結。タイ高専・韓国・台湾から短期留学生40名受入。 ②-2.5 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。 ②-2.6 地域の日本語ボランティアの協力を得たり、指導について第4ブロックで情報交換をしたり充実させた。
③-1.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう本科推薦選抜・学力選抜、編入学選抜、専攻科選抜を適切に実施する。 ③-1.2 入学生のアンケートなどによってアドミッションポリシーの妥当性の検証などを行う。	③-1.1 専攻科選抜は5月14日(火)に推薦、6月10日(月)に学力、編入学選抜は9月8日(日)に学力を、それぞれアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。本科入学者選抜については、令和7年1月18日(土)に推薦、2月9日(日)に学力をアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施する予定である。 ③-1.2 6月に新入生対象の「入学前後の実態調査」を実施し、アドミッションポリシーに沿った学生が入学しており、その妥当性を教務委員会で確認した。
③-2 障害がある受験生については、学生募集要項に事前相談について明記し、個別に状況の聞き取りをするとともに機構本部とも相談の上、適切な配慮を行う。	③-2 障害がある受験生に対する合理的配慮について、学生募集要項およびWebページに事前相談について明記していたが、さらにWebページに合理的配慮の例を追加した。専攻科選抜と編入学選抜では配慮の要望はなかった。本科入学者選抜で要望があれば、機構本部と連携して適切な配慮を行う予定である。
(2)教育課程の編成等 ①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するため、学科・専攻のカリキュラム改訂、特別課程の充実、改組等について、引き続き検討する。 ①-1.2 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。 ①-1.3 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、今年度発足した教学IR室と連携し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。 ①-1.4 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。	(2)教育課程の編成等 ①-1.1 「次世代型プラント技術者育成(PE)」、「アシスティブテクノロジー技術者育成(AT)」、「人工知能活用技術者育成(AI)」の各特別課程を継続的に開講しているが、高度技術教育センターを中心にそのあり方について見直しを開始した。 今年度、新たに「宇宙×社会課題解決人材育成講座」を課題演習2の単位として、企業と連携して開講した。 ①-1.2 3月に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動、地域連携活動等について意見交換を実施する予定であり、そこで得られた意見を今後の学校運営に活用することとしている。 ①-1.3 昨年度の企業アンケートの集計結果について点検・評価運営委員会で審議した。回答件数が少なくデータの信頼性が低いと言わざるを得ないため、回答率を高めるように企業面談時に回答を促すように声掛けをするなどの方針で進めている。 ①-1.4 11月に開催された四国地区教務主事会議において、再試験やSHRの取り扱い、また成績不振学生や要配慮学生への支援などについて情報交換し、議論した。
①-2 新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」関連企業などと連携したインターンシップ等の共同教育や特別課程における社会実装教育を実施する。また、compass5.0蓄電池分野の拠点校として、蓄電池人材育成のためのカリキュラムや教材の開発を進める。	①-2 インターンシップ参加者379人(本科339人、専攻科40人)のうち、「愛テクフォーラム」関連企業におけるインターンシップに41人参加した。 PE特別課程には18人、AT特別課程には13人、AI特別課程には10人の履修者がいる。 compass5.0蓄電池分野ではカリキュラムや教材の開発が進んでおり、新規開発教材を用いて6月に本校教員、11月に外部講師によるデモ授業を実施した。また、1月にも本校教員によるデモ授業を予定している。
大学や地域産業界との連携により、本校各専攻科コースの特色や強みを生かした共同研究を実施するほか、特に地域におけるベンチャービジネス創出や起業に関するプログラムを実施し、教育内容の高度化を図る。	大学や産業界と連携して、共同研究を実施している。また地域産業界と連携し、地域産業界の抱える問題に対して学生がアイデアを創出するイベントを年度内に実施する。さらに地域企業で実務を担う外部講師を中心とした授業の中で、ベンチャービジネスや起業について取り上げ、起業マインドの醸成を行っている。
②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に行う。 ②-1.2 海外の教育機関と積極的に提携し、海外に積極的に送り出し、あわせて短期留学生を積極的に受け入れ、かつオンラインも利用して交流を促進しキャンパスの国際化を推進する。 ②-1.3 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。	②-1.1 台湾文藻外語大学と協定締結。タイ・韓国・台湾へ学生を多数派遣、連携を強化した。 ②-1.2 台湾・韓国・タイの学生40名を受入。台湾とオンライン交流を実施。 ②-1.3 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。

年度計画	進捗状況
②-2.1 韓国・台湾などで語学研修やインターンシップを実施し、国際コミュニケーション力を育成し、現地の学生と協働して課題解決に取り組む人材を育成する。 ②-2.2 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。【再掲】1. 3(2)②-1.3 ②-2.3 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】1. 3(1)②-2.5	②-2.1 8-9月にタイ高専で現地学生との合同授業に参加。台湾文藻外語大学で語学研修、韓国永進専門大学校で専門研究インターンシップ、台湾日立工場の見学を実施。3月に韓国・大邱英語村で英語研修、台湾国立聯合大学で専門研修を実施する予定。 ②-2.2 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。【再掲】1. 3(2)②-1.3 ②-2.3 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】1. 3(1)②-2.5
③-1 高専連合会主催のロボコン、プロコン、デザコンや高専機構主催のDCONに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行う。また、高専PRIに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整える。高専体育大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、外部指導員の雇用など、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築する。	③-1 高専連合会主催のロボコン、プロコン、デザコンや高専機構主催のDCONに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行った。また、高専PRIに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整えた。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、昨年度に整備した「引率指導員」に加えて、新たに「技術指導コーチ」制度を制定し、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築した。
③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行う。 ③-2.2 新居浜市危機管理課と連携して、防災士養成講座を受講するとともに防災士の資格を取得することを学生に奨励する。 ③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募り、参加した学生を学内で表彰する。	③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動の支援を行った。奇術部のボランティア活動については、善行活動事例を市に報告し推薦を行った。表彰されることになった際には、該当学生及び顧問教員から校長に報告する予定である。校長への報告に関する記事を本校HPに掲載し、業績の周知・評価を行う。 ③-2.2 新居浜市危機管理課と連携して、防災士養成講座が開講されることを学生に周知し、防災士の資格を取得することを奨励した。 ③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募って活動している。参加した学生を学内で表彰する予定である。
③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行い、学生の申請を促す。その他、機構本部から配分された海外活動支援経費、その他各種奨学金の情報提供など学生・保護者への周知を行い、海外活動等に参加する機会の拡充を図る。 ②-2.1 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。【再掲】1. 2(2)②-1.3 ②-2.5 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】1. (1)②-2.5	③-3.1 トビタテの採用実績などHPで公開した。海外活動支援経費やその他奨学金についても周知を行い、国際交流を推進している。 ②-3.2 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。【再掲】1. 2(2)②-1.3 ③-3.3 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】1. 3(1)②-2.5
(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。 公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 電気情報工学科、生物応用化学科及び環境材料工学科の公募を実施し、令和7年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。
②-1 近隣大学の実施状況を参考に、同制度の実施可能性の高い組織(地元企業、近隣の大学・研究機関等)を想定した、協定書(案)について検討する。	②-1 協定書(案)について未着手であるが、本校教員の共同研究先である近隣大学大学院との連携協定を今年度に締結する。教員研究室所属の専攻科生の大学院推薦入試資格を付与してもらうところから、教員のクロスアポイントメント実施の可能性を探る。
②-2 アントレプレナー教育に関して、民間で活躍している企業経験者等を招いて講演会やイベント開催を検討する。また、企業法務経験者や弁理士による特許講座等も開催を検討し、本校の教育内容のレベルアップを図る。	②-2 新居浜市・新居浜商工会議所・えひめ東予産業創造センター及び本校が持ち回りで開催する異業種交流会(にいはま6:30倶楽部)を9月2日に実施した。また、この交流会に先立ち、にいはま起業家サロン～起業家講演会～を実施、高専専スタートアップ企業社長による講演会を開催した。

年度計画	進捗状況
③ 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策について委員と意見交換を行った。学事歴の見直しにより、土日に実施していたイベントを平日に行う等の働きかけを関係部署に行う。また、同居支援プログラムに応募する教員がいれば転出後に非常勤講師等で授業をバックアップする。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査等を進めるとともに、学生の課外活動時間短縮を実施し、教職員が働き易い職場環境を整備するための具体的な方策を検討する。	③ 11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することになっている。昨年度より同居支援プログラム及び四国高専間交流事業を利用し教員2名が転出しているため、非常勤講師等で授業をバックアップしている。さらに、他高専各種委員会も日中の授業の空時間を利用し、会議回数も平常時は月一回で実施する等の工夫を取り入れつつ、年次有給休暇の取得促進を運営会議及び教員会にて繰り返しアナウンスしている。
④ 一昨年度、採用した外国人数員に対する具体的支援について、所属学科及び教員自身の意見や要望を踏まえた上で支援内容を検討する。	④ 一昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人数員に対する具体的な支援について、所属学科長を中心に対応している。今後、グローバル教育推進プログラムを活用した外国人数員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討を始めている。
⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。また、国立高専間の教員の相互交流を推進する。	⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」では、派遣、受入とも、希望者がいなかったが、今年度は教員高専間交流1名、内地留学1名、在外研究1名、同居支援プログラムで1名の計4名が本校から他機関に派遣し、同居支援プログラムで1名を他高専から受け入れている。
⑥ 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修の有効活用(個人レベルでの研修への積極的参加の推奨、学校としての新任教員のSPODフォーラムへの参加義務)を実施すると同時に、SPODの講師派遣プログラムを毎年、本校で開催する。また、本部主催の管理職研修・中堅教員研修に派遣する教員を校長・人事係と検討し、幹部候補教員の資質・能力の向上のきっかけを提供する。	⑥ 今年度は11月22日にSPOD講師派遣プログラムを対面形式で実施した。
⑦ 高専機構の顕彰制度に合わせて、学内顕彰(最優秀教員・優秀教員・最優秀学級担任)も継続して実施する。	⑦ 高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員を2名(一般部門1名、若手部門1名)選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員4名を10月に選出した。なお、最優秀学級担任は3月に選出予定である。
(4)教育の質の向上及び改善 ①-1.1 改訂モデルコアカリキュラムを包含するディプロマ・ポリシーを達成させるようなカリキュラムの見直しを行う。また、学生に対してはディプロマ・ポリシー達成度の自己評価を、教員には授業改善を促す。 ①-1.2 アクティブラーニングや反転授業、動画教材作成など、主体的な学修を促すための試みを把握、学内で情報共有し、教育方法や教材などの共有化を検討する。 ①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。 ①-1.4 CBT(Computer-Based Testing)や勉学アンケート等により学生の学習到達度・学習時間を把握する。 ①-1.5 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の担当教員間で密な連携を図り、授業改善に繋げる。	(4)教育の質の向上及び改善 ①-1.1 MCCを包含するDPを達成させるようなカリキュラムの見直しを検討中である。DPの達成度については年度末に学生による自己評価を実施する予定である。また、新たに修得単位からDPの達成度を算出してe-ポートフォリオとする計画を進行中である。 ①-1.2 高専高度化推進経費にてVRを用いた教材作成セットを購入して学生がより活用しやすく定着率の高い教材の作成に取り組む。2月の教員会にて授業改善報告を実施し、意見交換を行う予定にしている。 ①-1.3 Web Classに講義資料や課題などをアップし、学生の予習・復習や自学自習をサポートを行っている。また、WebClassの活用状況を調査中である。 ①-1.4 10月に、2年生の数学、物理、化学のCBTを実施した。他の学年についても実施予定である。11月と12月の教員会にて昨年度の数学と物理のCBTの結果報告を行い、意見交換した。また、1月に今年度のTOEIC IPの結果を報告する予定である。また、勉学アンケートを10月に実施しており、その結果からDPの認知度の低さが改善されていないなどの課題を把握した。 ①-1.5 1月に専門基礎科目と専門科目の教員同士で情報交換、課題共有のための科目間調整連絡会を実施する予定である。
本校の自己点検・評価表に基づく取り組みを継続するとともに、次回の高等専門学校機関別認証評価に向けた指摘事項への対応状況の把握や国立高専教育国際標準(KIS)評価を計画的に進める。また、KIS評価結果は学内に共有・展開し教育の質保証及び向上に努める。	自己点検・評価表を取りまとめるとともに、次回R10年度に予定する4巡目となる高等専門学校機関別認証評価に対応した自己点検・評価表の改訂作業を開始した。また昨年末の監事監査時の指摘事項及び本年度のKIS評価結果は、学内に共有・展開し対応策を検討しており、教育の質保証及び向上に努めている。

年度計画	進捗状況
③-1.1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の実施状況を把握するとともに、現在実施している取組を充実させる。 ③-1.2 特別教育課程においてPBLを実施する事が可能なところから、PBLを導入していく。 ③-1.3 STEAM教育の支援および高度化を目指して、関連したテーマをマシニング応用ラボ等に取り入れることを検討する。	③-1.1 各学科や出前授業でPBLの実施を行っていることを把握している。 地域での課題解決を目指して、鬼北町・新居浜市と連携し、異学年・異学科による学生チームが、地域特有の微生物の探索や遺伝子解析などを通じて特産品(発酵食品や発酵化粧品素材など)の開発事業に取り組んでいる。また、鬼北町の中学生を対象に、1泊2日で本校学生による課題解決および出前講座を実施した(8/19、8/20)。 ③-1.2 AT特別課程では前期5年生8名が医療現場のニーズを形にし、理学療法士等と作品についてディスカッションし、それらの結果の一部を32回慢性期医療学会(11/14,15予定)、第8回日本リハビリテーション医学会秋季大会(11/2-4)、Japan-ATフォーラム2024(10・23)において展示・口頭発表した。後期からは4年生(M/E/D/C科の学生8名)が新たなテーマに取り組んでいる。 ③-1.3 小中学生向けSTEAM教育の一環として、公民館と連携し、「タブレット教室」を小1・小6に対して内容を本校学生が考え、公民館と協議し、学生講師で実施した(8/21,23)。出前講座の中で数学パズルなど課題解決に用いるための応用教育を実施(12/7予定)した。また、学生向けSTEAM教育の一環として、プログラミングを中心とした基礎的な情報教育と段階的に課題解決に情報技術を用いるための応用教育を他高専門と連携した講座で実施した。
③-2.1 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、実習やインターンシップ等の共同教育を実施し、高専フォーラム等で取組事例を周知する。 ③-2.2 地域企業等と連携した「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)」において、現役プラント技術者による最前線の講義と実習を行うとともに、企業現場での実習(インターンシップ)を行うなど、共同教育を実施する。現行の特別課程の発展を検討し、新たな企業連携教育プログラムの形を検討する。	③-2.1 バッテリー(蓄電池)教育コンテンツの開発に向け産業界と連携し、モデル教材を開発し、第1章、2章、3章、4章が概ね完成した。また、スタートアップ関連の機器の紹介を実施し、起業家に関する企画提案を募集し、現在3件の申請があり進行中である。 ③-2.2 PE課程では地元企業と連携し、現役プラント技術者による講義と実習を行うことができた。また、4年生は夏季休業中に地元企業での現場実習(インターンシップ)を実施した。現行の特別課程3過程は、発展的解消を含めた見直しを進めている。
④ ・技術科学大学との機器相互利用プログラムの活用状況を把握し、技術科学大学と教育研究分野で有機的な連携を図る。 ・技術科学大学との共同研究助成、共同研究の状況の現状を把握し、更なる共同研究の推進を図る。 ・両技術科学大学の教育・研究に関する情報を収集し、適宜学生や教職員へ周知・展開する。	④ ・長岡技科大とのコアファシリティ事業に参画し、連携を行っている。 ・高専-長岡技科大 共同研究助成に3件が採択され、共同研究が実施されている。 ・長岡技術科学大学で開催される国際会議The 9th STI-Gigaku 2024 Conferenceにおいて、研究に参画している本校学生が発表予定である。
(5) 学生支援・生活支援等 ①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者等、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成する。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼する。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する。 ①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。年度当初に学級担任による個別面談を実施するとともに、教職員間の連携を密にすることにより、継続的に学生を支援する。 ①.3 保健室の看護師も常勤1名、非常勤1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。 ①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。 ①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行う。	(5) 学生支援・生活支援等 ①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成した。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼した。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する予定である。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する予定である。 ①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続している。年度当初に学級担任による個別面談を実施させ、教職員間の連携を密にすることにより、継続的に学生を支援した。 ①.3 保健室の非常勤看護師1名が急遽退職したことに伴って、常勤1名、非常勤1名の看護師常時2名体制を継続するために、非常勤看護師を公募している。 ①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。 ①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行った。
② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底する。担任と学生・図書係が連携して学生に奨学金制度をPRするとともに各奨学金制度へのマッチングを図る。	② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底した。担任と学生・図書係が連携して学生に奨学金制度をPRするとともに各奨学金制度へのマッチングを図った。

年度計画	進捗状況
③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設する。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用する。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源とする。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員(外部委託等)の配置を検討する。 ③.2 オンライン企業説明会の資料をWebClassに掲載し全学生に公開し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行う。 ③.3 卒業生・修了生アンケートにおいてキャリア支援に関する満足度調査を実施する。	③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設している。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用している。また、点検・評価運営委員会において報告された令和5年度本校合同企業説明会参加企業へのアンケート及び卒業生へのアンケートの集計結果を受け、学内でのキャリア教育の情報源としている。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任の非常勤職員を配置している。 ③.2 3月1日に開催を予定している合同企業説明会(対面式)の参加企業紹介資料が掲載されるWebサイトを全学年が閲覧できるよう周知し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行う予定である。 ③.3 卒業・修了予定学生を対象に実施する学校評価アンケートにおいてキャリア支援に関する満足度調査を実施する予定である。
1.2 社会連携に関する事項 ①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する。 ①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトを更新し情報を発信する。 ①.3 Researchmapの情報の更新を促し、国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。 ①.4 2024年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開する。 ①.5 HPで共同研究・受託研究についての情報を発信する。	1.2 社会連携に関する事項 ①.1 教員の年間業績報告書を作成しウェブサイトで公開した。Researchmapから年間業績報告書を自動作成できるシステムの構築も完了し運用を進めている。 ①.2 新居浜市ロビーにて、教員の研究テーマの提示などの広報を予定している。 ①.3 Researchmapの情報の更新を促し、国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の更新を行った。 ①.4 2024年度版新居浜高専教員シーズ集(Vol.16)を作成し、ウェブサイトで公開した。また、社会からのニーズが高く、ウェブ版に加え印刷・発刊し、関係企業等への配布を行った。
②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地方公共団体の関係者から情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。 ②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。	① 鬼北町の中学生を対象に、本校学生が主体となり、1泊2日に出張出前講座(遺伝子組み換え実験)を実施した。 ② 自治体(新居浜市・鬼北町)や地域の企業等と連携し、異学年・異学科による学生チームが地域活性化を目指して、地域の微生物資源の探索や発酵による特産品の開発に取り組んでいる。 ③ 担当講師に検討を依頼している。 市民講座の内容(微生物と発酵について)を小中学生にも理解できるようにブラッシュアップする予定である。また、小中学生にも興味を持ってもらえるように、講座の一部で②の学生(1年生)が自分たちの活動を紹介する予定である(11/16)。
③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。 ③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び内容の検討を行う。	③-1.1 YouTubeの本校広報チャンネルは学校紹介動画の改訂と併せて検討している。 ③-1.2 動画コンテンツについては、本年度中に学校紹介動画の改訂に向けて検討を進めている。
③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。	③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を実施している。また、情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告している。
④-1 STEAM教育支援の一つとして、小中学生を対象とした出前講座を検討する。 ④-2 地域の課題調査や地域資源発掘、地域活性化プランづくり、地域特産品開発などの地域連携活動に、学生を主体的に参加させることにより「総合知」教育を推進する。 ④-3 生涯学習センターにおける市民講座や出前講座の内容を、小中学生も参加できる内容にブラッシュアップすることを検討する。	④-1 STEAM教育支援の一つとして、小中学生を対象とした出前講座を検討する。 ④-2 地域の課題調査や地域資源発掘、地域活性化プランづくり、地域特産品開発などの地域連携活動に、学生を主体的に参加させることにより「総合知」教育を推進する。 ④-3 生涯学習センターにおける市民講座や出前講座の内容を、小中学生も参加できる内容にブラッシュアップすることを検討する。
1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。	1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 語学研修・インターンシップなど他高専と合同で行い、またキャンパス国際化に関しても情報共有し、学生のグローバルマインドの育成を行った。
①-2 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、機会があれば可能な限り支援・協力を行う。	①-2 モンゴルについては、支援・協力関係を築くことはできていない。
①-3.1 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、今後も教員派遣に積極的に協力する。また、学生派遣についても今年度中に実施し、教員・学生相互の交流を実現する。 ①-3.2 タイ高専からの長期留学生、1か月インターンシップ生を受け入れ、その機会を捉えてタイ高専教員と意見交換を行う。	①-3.1 タイ高専KMITLとは担当教員が連絡を密にし、連携を行っている。8月に学生をKMITLに派遣し、交流した。 ①-3.2 長期留学生・1か月研修の受入を行った。

年度計画	進捗状況
①-4 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、機会があれば可能な限り支援・協力を行う。	①-4 現在情報を収集中である。交流計画を検討している。
①-5 プロジェクトに対して、可能な限り支援・協力を行う。	①-5 支援協力を行うことはできていない。
①-6 視察の受入および本部との意見交換を通して「KOSEN」についての正しい理解の浸透を図るように協力する。	①-6 台湾の半導体人材育成事業について意見交換を行う予定。
①-7 KISの認定に向けた指導・助言を行うことに協力する。	①-7 KISの認定に向けて協力した。
② タイ高専について、学生の派遣を企画し、教職員・学生双方の相互交流を実現し、海外展開と国立高専の国際化を一体的に推進する。	② 派遣・受入を行い相互交流を実現した。
③-1.1 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。【再掲】1. 3(2)③-1.3 ③-1.2 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】1. 3(1)②-2.5	③-1.1 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。【再掲】1. 2(2)②-1.3 ③-1.2 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】1. 3(1)②-2.5
③-2.1 韓国・台湾などで語学研修やインターンシップを実施し、国際コミュニケーション力を育成し、現地の学生と協働して課題解決に取り組む人材を育成する。再掲1.3②-2.1 ③-2.2 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。【再掲】1. 3(2)②-1.3 ③-2.3 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する。あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】1. 3(1)②-2.5	③-2.1 8-9月にタイ高専で現地学生との合同授業に参加。台湾文藻外語大学で語学研修、韓国永進専門大学校で専門研究インターンシップ、台湾日立工場の見学を実施。3月に韓国・大邱英語村で英語研修、台湾国立聯合大学で専門研修を実施する予定。 ③-2.2 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。【再掲】1. 2(2)②-1.3 ③-2.3 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】1. 3(1)②-2.5
③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行い、学生の申請を促す。その他、機構本部から配分された海外活動支援経費、その他各種奨学金の情報提供など学生・保護者への周知を行い、海外活動等に参加する機会の拡充を図る。【再掲】1.3(2)③-3.1 ③-3.2 学生の海外派遣を推進しつつ、初年次教育においてグローバルな視点を意識したSDGs教育をAL型授業で実施し、自ら進んで社会課題の解決を目指すリーダーシップを身につけさせて、アントレプレナーシップ・プログラムへの学生の参画を促進する。【再掲】1. 3(2)②-3.3 ③-3.4 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】1. 3(1)②-2.5	③-3.1 トビタテの採用実績などHPで公開した。海外活動支援経費やその他奨学金についても周知を行い、国際交流を推進している。 ③-3.2 計画的に海外派遣を推進。1年次「リベラルアーツ演習」でグローバルマインド・社会性・リーダーシップを養成する授業を実施。【再掲】1. 2(2)②-1.3 ③-3.4 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】1. 3(1)②-2.5
④-1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。【再掲】3(1)②-2.1 ④-2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。【再掲】3(1)②-2.2 ④-3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】3(1)②-2.3 ④-4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。【再掲】3(1)②-2.4 ④-5 日台合同カンファレンスを共同実施し、海外の学生との切磋琢磨する機会を提供する、あわせて海外の学生が参加するKOSEN Global Campの実施に協力する。【再掲】3(1)②-2.5 ④-6 日本語の支援について、学内の非常勤講師のみならず、新居浜市や第4ブロックとも協力関係を築いて充実させる。【再掲】3(1)②-2.5 ④-7 KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTから本科3年次への外国人留学生の受入を継続する。	④-1 地域と留学生との交流行事(留学生母国紹介)を行い、支援をお願いした。【再掲】3(1)②-2.1 ④-2 英文併記の学校案内を発行するなど、広報活動を行った。【再掲】3(1)②-2.2 ④-3 留学生対象の行事はHPにおいて公開した。【再掲】3(1)②-2.3 ④-4 台湾文藻外語大学と協定締結。タイ高専・韓国・台湾から短期留学生40名受入。【再掲】3(1)②-2.4 ④-5 日台合同カンファレンスを7月に台湾国立聯合大学と開催。本校学生9名が参加。【再掲】3(1)②-2.5 ④-6 地域の日本語ボランティアの協力を得たり、指導について第4ブロックで情報交換をしたり、充実させた。【再掲】3(1)②-2.6 ④-7 昨年度はKOSEN-KMITLから1名受け入れたが、今年度はKMITLとKMUTTから1名ずつ受け入れた。今後も継続していく。
⑤-1 海外渡航先の状況に注意を払い、安全を確保する。海外渡航届の提出時に海外旅行保険の加入を確認する。 ⑤-2 外国人留学生の学業・生活状況を定期的にミーティングを行って把握し、適切な指導を行う。	⑤-1 海外渡航届の事前提出を家族旅行なども含め、全員に提出させ、保険加入の確認を行った。 ⑤-2 外国人留学生の状況を、留学生指導担当教員を中心に把握、共有して、対策を講じ、学習と生活支援を行っている。

年度計画	進捗状況
2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 ① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。 ② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。 ③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。	2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 ① 予算の計画的な執行及び適正な物品管理に努めている。各種事業・行事等の実施については、関係部署等と連携して効率的に運営できている。 ② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。 ③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、改訂作業を行っている。
2. 3 契約の適正化 ① 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。 【再掲】2. 1 ②	2. 3 契約の適正化 ① 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。 【再掲】2. 1. ②
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 各部署と情報交換を行いながら、教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化を推進する。またこれらの効率化が持続可能であり続けるための情報システムの適切な整備及び管理を行う。	2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 学内共用ファイルサーバの更新を準備中である。またこのサーバを利用し、電子化された成績資料の保管を行う予定である。高専高度化推進に係わるWebClassを利用した学生の学習支援システムの構築を行っている。 バージョン管理システム(Gitサーバ)の構築を行った。Wi-Fiからの接続が利用するネットワークについても標的型攻撃に対応できるよう機能の拡張を行った。 8月に複数のネットワーク機器に不具合が生じたが、対応済みである。
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・校長裁量経費として、教育研究推進費、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、社会貢献・地域連携促進等につながるよう予算措置を行う。 ・運営費交付金の会計処理について、業務達成基準による収益化が原則とされたことに注意し、収益化単位の業務ごとに予算管理する。	3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・教育研究推進費、共同研究推進費は5月に募集を行い、7月に該当教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、4月及び10月に当該教員へ予算配分を行った。 ・業務達成基準の収益化については、業務終了時に収益化できるよう、収益化の単位ごとに予算管理を行っている。
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とし、関連情報を学内へ周知するとともに講習会等を実施する。 ①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。 ①.3 卒業生が就職した企業、同窓会等からの寄附金の獲得につながる取組を検討する。 ①.4 各種マッチングイベントの出席に係る経費の一部を支援するなど積極的に参加を推奨する。	3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ①.1 科研費採択教員による科研費セミナーを実施した。本年度の実施件数(代表)は23件となり過去最高の件数である。また、機構内の査読ネットワークも活用している。 ①.2 校長裁量経費「共同研究推進費」を実施し3件を採択した。また、審査において外部資金への申請の観点も明確にできた。 ①.3 新居浜高専基金を設立し、寄附金の獲得拡大につなげるPRを継続してしている。 ①.4 公益財団法人えひめ東予産業創造センター等を通じて、地元企業との共同研究強化の取り組みを継続している。
3. 3 予算	—
3. 4 収支計画	—
3. 5 資金計画	—
4. 短期借入金の限度額	—
5. 不要財産の処分に関する計画	—
6. 剰余金の使途	—
7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項	—
7. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1: 令和6年度は施設整備費補助金(令和5年度補正予算)にて【螢雪寮改修事業】を実施中である。年度内完成が必須であることから関連部門と協働し事業完遂を目指す。 ①-2: 令和7年度概算要求事業として、電子制御工学科棟改修・学寮食堂改修・第一体育館改修の3事業の予算要求を実施する。※第一体育館改修については、新居浜市の避難所指定を受けていることから、防災機能強化を含めた要求とする。 ①-3: トイレ改修について、令和4年度にキャンパスマスタープラン策定WGにて策定したトイレ改修計画に基づき、予算状況に合わせて実施する。 ①-4: 非構造部材の劣化対策について、月1度構内点検を実施し、優先度の高い案件から改修を実施する。	7. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1: 工事着工済み。建新も契約係において、初回の入札済み。工事・建新共に執行残の追加執行に向けて、学寮側の意向を反映しながら準備中。 ①-2: 3事業の予算要求を行い、電子制御工学科棟改修と第一体育館改修事業については文科省より【S】評価を得た。学寮食堂改修については【B】評価だったため、さらなるブラッシュアップが必要(R8年度概算事業として再提出の予定)。 ①-3: トイレ改修計画は現在準備中。財源が確保出来次第、執行可能な状態。 ①-4: 月1構内点検を実施し、改修優先度の高いものから工事を行っている。

年度計画	進捗状況
② 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。また、学外から講師を招いて、放射線業務従事者講習会を実施する。	②新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付した。8月に愛媛大学から講師を招いて、放射線従事者講習会を実施した。
③キャンパスマスタープラン策定WGを通じて、本校の運営に携わる全教職員、学生からの要望を収集し、令和の時代にふさわしいキャンパス環境の形成を念頭に、校舎・学寮・体育施設の改修を進める。	③学生からの要望については、今年度第1回キャンパスマスタープラン策定WGにてメンバーで共有し、各メンバーを通じて各科・各センター・各委員会に情報展開済み。教職員からの要望については、キャンパスマスタープラン策定WGにて随時受け付ける体制を整えている。各種要望については、予算状況と優先度合を見ながら実施する予定。
7. 2 人事に関する計画 (1)方針 ①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図る。また、外部指導員を活用した課外活動支援を検討し、実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討する。 ①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー、スクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。【再掲】・・・ ①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。【再掲】・・・ ①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続する。また、2名体制の宿直業務のうち1名について、土・日・祝日と平日の一部を外部委託しているが、これを継続し、平日の外部委託は増進していく。	7. 2 人事に関する計画 (1)方針 ①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図った。外部指導員を活用した課外活動支援を今年度から実施した。 ①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。【再掲】1. 1(5)①.2 ①.3 保健室の非常勤看護師1名が急遽退職したことに伴って、常勤1名、非常勤1名の看護師常時2名体制を継続するために、非常勤看護師を公募している。【再掲】1. 1(5)①.3 ①.4 教員の負担軽減のため、学生寮日直業務及び学寮指導業務は外部委託を継続することとなった。宿直業務については、土・日・祝は宿直者2名のうち1名について外部委託することとなり、平日の外部委託については今年度は配置しないこととした。
② 教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分を行う。また、国立高等専門学校幹部人材育成のための計画的な人事交流を行う。	② 教員の戦略的配置のため、今後の各年度における各学科・科の人員配分案を校長・副校長・人事係で検討し、学内の人事構想を毎年更新している。また、昨年度まで高専本部に派遣していた教員が今年度4月に本校に復帰した。今後も人材育成のため、適任者に対する計画的な人事交流を検討する。
③ 第5期中期目標・計画期間中の人員枠削減が停止されたため、第4期の人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保する。	③ 第5期中期目標・計画期間中は人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行う。今年度も、若手教員の採用枠を確保しつつ、今後の採用計画の立案を行った。11月に学内昇格人事2件を人事委員会で審議した。
④-1 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。 公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。【再掲】1. 1(3)①	④-1 電気情報工学科、生物応用化学科及び環境材料工学科の公募を実施し、令和7年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。【再掲】1. 1(3)①
④-2 近隣大学の実施状況を参考に、同制度の実施可能性の高い組織(地元企業、近隣の大学・研究機関等)を想定した、協定書(案)について検討する。【再掲】1. 1(3)②	④-2 協定書(案)について未着手であるが、本校教員の共同研究先である近隣大学大学院との連携協定を今年度に締結する。教員研究室所属の専攻科生の大学院推薦入試資格を付与してもらうところから、教員のクロスアポイントメント実施の可能性を探る。【再掲】1. 1(3)②
④-3 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策について委員と意見交換を行った。学事歴の見直しにより、土日に実施していたイベントを平日に行う等の働きかけを関係部署に行う。また、同居支援プログラムに応募する教員がいれば転出後に非常勤講師等で授業をバックアップする。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査等を進めるとともに、学生の課外活動時間短縮を実施し、教職員が働きやすい職場環境を整備するための具体的な方策を検討する。【再掲】1. 1(3)③	④-3 11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することになっている。昨年度より同居支援プログラム及び四国高専間交流事業を利用し教員2名が転出しているため、非常勤講師等で授業をバックアップしている。さらに、他高専各種委員会も日中の授業の空時間を利用し、会議回数も平常時は月一回で実施する等の工夫を取り入れつつ、年次有給休暇の取得促進を運営会議及び教員会にて繰り返しアナウンスしている。【再掲】1. 1(3)③

年度計画	進捗状況
④-4 一昨年度、採用した外国人教員に対する具体的支援について、所属学科及び教員自身の意見や要望を踏まえた上で支援内容を検討する。【再掲】1. 1(3)④	④-4 一昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員に対する具体的な支援について、所属学科長を中心に対応している。今後、グローバル教育推進プログラムを活用した外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会での検討を始めている。【再掲】1. 1(3)④
④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会を開催する。 ④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。 ④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。 ④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する。 ④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加し、情報の共有・普及を行う。 ④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。【再掲】3.1(1)②	④-5.1 教職員対象にオンライン研修動画による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会を開催する予定である。 ④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会にオンライン参加する予定である。 ④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、都度情報発信している。 ④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて表示する専用ページを作成するよう協議中である。 ④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加する予定である。 ④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加する予定であるが情報収集中である。
⑤ 教員に関しては、四国地区および全国・ブロック単位での異動希望調査を実施、相互交流を推進する。高専指定の異動希望については、関係高専と直接協議し、可能な限り個人の事情に配慮した人事交流を検討する。事務系職員については、近隣国立大学との積極的な人事交流を推進するとともに、近隣高専と事務系職員の採用に係る合同面接を実施する。	⑤ 今年度、教員に関して、高専間異動希望調査を実施したが希望者はいなかった。事務系職員について、人事交流により愛媛大学から4名が派遣されている。来年度も4名の人事交流を予定している。また、弓削商船高等専門学校と合同で職員の新規採用面接を実施した。
(2) 人員に関する指標 常勤職員の職務能力を向上させるための機会(各種研修への参加推奨、自律的な活動への評価等)、業務の効率化を図るための方策(業務改善アイデア)、事務のIT化(グループウェアの活用等)に向けた取組等を通じて、人材の育成及び人材の適切な配置に努める。	(2) 人員に関する指標 職員の各種研修等については、積極的に参加させており、人材の育成に努めている。 また、一昨年度からGaroonを導入し、事務だけでなく学内全体のIT化を図っている。
7. 3 情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 新居浜高専として、情報戦略推進本部に協力し、情報システムの最適化に取り組む。	7. 3 情報セキュリティについて ① Microsoft365のデータ容量上限設定について情報戦略推進本部から通知の依頼があり、全体への通知および容量条件を超えているものに対する連絡を行うなど、情報戦略推進本部と協力を行っている。
② 情報担当者を対象として研修に参加し、デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むための人材育成を図る。	② 機構本部から研修の案内があり、技術職員の派遣を決定している。
③ 情報セキュリティ監査に備え準備を行い、その結果を評価し、必要な対策を講じる。	③ 情報セキュリティ監査は12/23～12/24に実施。現在は、その結果に対する対応を行っている。
④ 全教職員に対するインシデント対応訓練、情報セキュリティ教育を、計画に基づいて実施する。	④ 全教職員対象の情報セキュリティに係る誓約書の提出は実施。全教職員の情報セキュリティe-Learning、インシデント対応訓練を実施した。
⑤ 情報セキュリティ管理委員会および情報セキュリティ推進委員会が連携し、情報セキュリティ対策を進める。	⑤ 6月に情報セキュリティ管理委員会を開催し昨年度のセキュリティ関連の実施状況および今年度の実施予定を報告した。また、情報セキュリティ管理委員が情報セキュリティトップセミナーに参加している。情報セキュリティ推進委員会は今後開催の予定である。
⑥ KOSEN-CSIRTと連携し、インシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、「すぐやる3箇条」の周知、情報セキュリティインシデントの予防や啓発を実施する。	⑥ 4月に「すぐやる3箇条」の更新を行った。8月の長期休暇前に注意喚起を行った。また、11月の教員会では標的型メールに対する注意喚起を行った。
7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップのもと、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行う。また、大人数の会議及び他高専等との会議では必要に応じてWEB会議システムを活用する。	7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行うよう努めている。また、各種会議等については、学内外に関わらずWEB会議システムを活用している。
①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。	①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めている。

年度計画	進捗状況
①-3 各校長会議等において、学校運営や教育活動の在り方等について意見交換を行う。	①-3 四国地区高専校長・事務部長会議、第4ブロック校長会議に出席し、地区及びブロック内で学校運営や教育活動の在り方等の課題について意見交換を行い、情報共有と連携を図っている。また、7月24日に理事長との面談を実施し、機構全体の共通課題や本校の課題等について意見交換を行った。
②-1.1 校長は理事長との面談において得た機構全体の共通課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。 ②-1.2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)とで各担当部署における今年度の年度計画や課題等について確認を行うとともに情報共有を行う。 ②-1.3 校長と全教員との面談を実施する。	②-1.1 7月24日の理事長との面談において得た機構全体の共通課題や本校の課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底に努めている。 ②-1.2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)との間で、その都度機会を設け、各担当部署の年度計画や課題等について確認を行い、情報共有に努めている。 ②-1.3 校長と全教員との面談を4～5月に実施した。
②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ②-2.2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的なコンプライアンス意識を浸透させるために研修等を実施する。	②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検については、今後実施する予定である。 ②-2.2 高専機構主催の階層別研修に参加しており、年度内にコンプライアンス研修を実施予定である。
②-3 リスク事案については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処する。	②-3 リスク事案(情報セキュリティ関連を含む)については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処することに努めている。
③.1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、今年度における重点監査項目等を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。 ③.2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。 ③.3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、速やかに監査対象課題を選出し、効果的に監査を行うことができる体制を構築する。	③.1 被監査校として監査を受けるにあたり、担当者間で打合せを行っている。日常監査のほか今年度の重点監査項目を含め、監査事項等について理解を深めた上で監査に臨む手続きを進めている。 ③.2 高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。 ③.3 学内内部監査については年度内での実施に向けて準備を進め、手続きを行っている。
④.1 高専機構における各種規定及びマニュアルについては、本部からの通知に従い適切に周知し、業務へ反映させる。 ④.2 高専機構の不正防止計画等の取組を適切に実施し、不正を事前に防止する体制や不正を発生させないよう努める。	④.1 高専機構の規則改正時など、本部からの通知に従い適切に周知している。状況に応じた見直しを行い、業務に反映させている。 ④.2 高専機構の不正防止計画等への取り組み状況については、啓発活動を定期的に行っている。高専機構の不正防止計画とともに年2回の学内説明会を行うこととし、1回目を7月に開催し、12月に2回目の開催を予定している。
⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。	⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定した。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

(運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

令和6年度（第20回）

運営諮問会議報告書

令和7年3月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL: (0897) 37-7700

FAX: (0897) 37-7842

H P: www.niihama-nct.ac.jp